



大垣市制100周年
記念事業



公益財団法人 大垣国際交流協会 30周年記念誌

Ogaki International Exchange Association 30th Anniversary

公益財団法人 大垣国際交流協会

30周年記念誌

Ogaki International Exchange Association 30th Anniversary





公益財団法人 大垣国際交流協会 理事長
日比 利雄

30周年を迎えて

昭和 63年(1988年)に設立された公益財団法人大垣国際交流協会は、平成 30年(2018年)に30周年を迎えることができました。これもひとえに皆さま方のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

設立以来、産業、文化、スポーツ、教育等幅広い分野で国際的な交流を基とした大垣市の「フレンドリー構想」の促進を図り、国際社会に対応できるまちづくりと国際親善に寄与することを目的に、さまざまな国際理解、国際交流事業を展開してまいりました。フレンドリーシティとの交流事業では、この30年間で受入れ総数約 1,110人、派遣総数約 770人という大きな実績を残すことができました。

また、大垣市に暮らす外国人市民数は、平成 20年(2008年)秋の世界同時不況などの影響で、減少傾向でしたが、再び平成 27年(2015年)から増加に転じ、平成 31年(2019年)2月末現在ではブラジル、中国、フィリピン、ベトナムなど 43か国 5,233人に上っています。

日本語でのコミュニケーションを図ることができないため、生活に必要な情報が十分に得られないという地域生活を送る上で切実な問題があり、日本語の学習支援を含めた外国人市民支援事業にも取り組んできました。

そうした中、出入国管理及び難民認定法の改正による外国人市民の増加が予測され、「歴史的な転換点」を迎えているともいわれており、互いに理解を深め、多様性を活かした地域社会を築き、共に生きていくことを大きなテーマの一つとして、積極的に取り組んでまいりたいと思います。

今後もフレンドリーシティとの幅広い国際交流を展開するとともに、地域在住外国人市民と共生できるまちづくりを幅広く展開していくためにも、皆さま方の変わらぬご支援とご理解をお願い申し上げご挨拶といたします。



大垣市長
小川 敏

公益財団法人大垣国際交流協会 設立 30 周年を祝して

公益財団法人大垣国際交流協会が設立 30 周年を迎えられましたことに心からお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和 63 年(1988年)の設立以来、フレンドリーシティ交流事業を柱として、大垣地域の国際交流事業の中心的役割を果たしてこられたことに、深く敬意を表する次第でございます。

さて、近年の生産年齢人口の減少を背景に、出入国管理及び難民認定法の改正により、外国人市民はこれからますます増加することが想定されます。

こうした中、貴協会では、在住外国人への日本語学習支援や、異文化の相互理解を図る講座の開催など、本地域における多文化共生社会実現のために国際交流、国際協力活動を推進していただいております。

本市におきましては、市制 100 周年を機に、新たなまちづくり指針「大垣市未来ビジョン」のもと、「多くの市民が、性別や国籍にとらわれず、お互いを尊重しあえるまち」を目指し、貴協会と連携して、日本語学習の支援や、相談体制・情報提供の充実、国際交流の促進などに取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後とも一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

終わりに、設立 30 周年を契機とし、貴協会のますますのご発展を祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。



大垣市議会議長
石川 まさと

30 周年によせて

公益財団法人大垣国際交流協会が創立 30 周年を迎えられましたことに、大垣市議会を代表して心からお祝い申し上げます。

昭和 63 年(1988年)9月に発足した大垣国際交流協会は、国際交流活動や地域で生活する外国人との共生に向けた取り組みなど、着実に成果を上げてこられ、そのご努力に対し深甚なる敬意を表する次第でございます。

外国人市民の増加とともに、地域住民との共生、安全・安心できる生活、活動しやすい開かれた地域への必要性が高まっており、生活情報の提供や相談対応、地域住民との交流の場の創出など、貴協会のさまざまな施策の展開は、本市の国際化に大きく貢献してこられました。

中でもフレンドリーシティ交流事業では、小・中学生の海外派遣や海外訪問団の受け入れなどを通して、官民一体となった都市間交流による市民交流の輪が世界中に広がっておりますことは、この上ない喜びであり、関係各位のご尽力に心から感謝申し上げます。

国際化への対応は、本市の活性化に大きく貢献するとともに、創造的で個性的な魅力あるまちづくりを推進していく上において、欠かすことのできないものであります。

市議会といたしましても、次代を担う青少年はもとより、市民の国際感覚の醸成を図り、外国人市民と地域住民が共生するための体制整備を進めるとともに、相互理解と友好親善を深める国際交流を積極的に推進してまいりたいと思っております。

この記念すべき 30 周年を契機に、大垣国際交流協会のますますのご発展と、関係各位のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げまして、お祝いのことばといたします。



目次

理事長挨拶

公益財団法人 大垣国際交流協会 理事長 日比 利雄	3
---------------------------	---

祝 辞

大垣市長 小川 敏	4
大垣市議会議長 石川 まさと	5

30周年記念事業	8
----------	---

30年間の歩み	10
---------	----

フレンドリーシティ交流	16
-------------	----

・大垣市のフレンドリーシティ紹介	16
・新たな交流スタート！ 大垣市とビーバートン市、ユージーン市とのフレンドリーシティ交流	18
・フレンドリーシティ派遣事業	20
・フレンドリーシティ派遣事業団員 OB の体験談・メッセージ	24
・フレンドリーシティからの受入	26
・団体やグループなどによる交流	27

多文化共生推進事業	32
-----------	----

・多文化共生とは	32
・外国人市民のための日本語学習支援	34
・外国人市民のための相談窓口の設置	36
・外国人市民のための行事、講座等	37
・外国語基礎会話講座	38
・海外事情紹介事業	38
・地域国際交流事業	39
・外国人市民に聞きました	40
・国際交流ボランティア活動紹介	42
・大垣市の取り組み	44

未来への提言	47
--------	----

資料編	50
-----	----

・公益財団法人 大垣国際交流協会 定款	50
・役員・組織図・賛助会員数・ボランティア登録者数	54
・フレンドリーシティとの交流経緯	55

編集後記	63
------	----

昭和63年(1988年)に設立された大垣国際交流協会は、今年度で設立30周年を迎えることができ、賛助会員、ボランティア登録者、フレンドリーシティ派遣団員OBなど協会に関わりの深い方々や外国人を含む市民の皆さん、計245人にご参加いただき、記念式典と交流会を実施しました。

設立30周年記念式典

日比利雄理事長の式辞に始まり、小川敏大垣市長、石川まさと大垣市議会議長をはじめ来賓の方からの祝辞をいただき、また海外フレンドリーシティの行政関係者からのビデオメッセージの上映をしました。



▲日比利理事長の式辞



▲小川市長の祝辞



▲海外フレンドリーシティからのビデオメッセージ上映



続いて、国際交流ボランティアとして15年以上登録をされている16名の皆さまに感謝状を贈呈しました。

15年以上の長きに亘りご登録いただき、海外からの受入時のホームステイや日本文化紹介、通訳、また地域在住外国人市民への日本語学習支援事業などの事業活動にご協力いただきました。

ありがとうございました。今後もよろしくお願いいたします。

～16名の皆さまに感謝状を贈呈～

- | | |
|--------|--------|
| 古田 優山様 | 白井 芳子様 |
| 山田 利彦様 | 大野久美子様 |
| 田中 幸子様 | 若杉かおり様 |
| 松下 卯蔵様 | 角田 敬様 |
| 石川 雅啓様 | 子安百合子様 |
| 大澤 悦子様 | 丸山 雅和様 |
| 相岡 久子様 | 北岡 琢己様 |
| 森 妙子様 | 杉岡 智子様 |



▲代表してごあいさつをしていただきました



多文化共生交流会

式典に続き交流会にも多くの方にご参加いただきました。写真による30年の歩みの振り返りのほか、海外フレンドリーシティの関係者からのビデオメッセージ上映、フレンドリーシティ派遣団員OBや学校法人HIRO学園生徒のスピーチ発表を行いました。

また、外国の文化紹介として、ブラジルの「サンバ」や格闘・音楽・ダンスの3つの要素が合わさった「カポエイラ」、またネパールの踊りの披露をしました。加えて、フィリピン、ベトナム、ブラジルなどの外国の食文化の体験をしながら、参加者同士の交流も大いに盛り上がりしました。

ブラジルの格闘・音楽・ダンスが合わさった「カポエイラ」



乾杯!!



▲ブラジルの踊り「サンバ」大いに盛り上がりしました



▲ネパールの踊り



交流コーナー

岐阜経済大学の留学生の方の協力により、ベトナムとネパールの料理を提供しました。

また、特設ステージでは、「カポエイラ」と「サンバ」の披露もしました。

参加者も「カポエイラ」に飛び入り参加!!



▲ベトナム人留学生によるベトナムコーヒーの振る舞い

学校法人HIRO学園生徒のスピーチ

平成30年(2018年)12月に開催されたNPO法人可児市国際交流協会主催の「第8回日本語作文コンテスト」に出場した際の作文を発表してくれました。



▲丸岩セリーネ カオリさん

「わたしの街」をテーマにスピーチ



▲山本 マヤラさん

▲岩下 ルーカス ヒデキさん

フレンドリーシティ派遣団員OBの体験談スピーチ



▲平成23年度ベルギー・ナミュール市 大角 碧唯さん



▲平成29年度中国・邯鄲市 家倉 隆慶さん



▲懐かしい写真を紹介しながら、体験談を発表してくれました



▲平成29年度ベルギー・ナミュール市 川添 有希さん

日本の文化紹介(お点前)

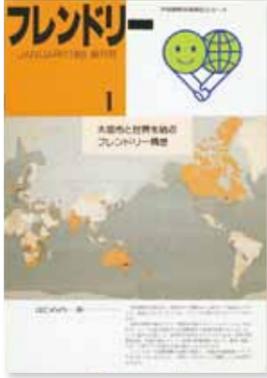
外国人市民のみなさんをはじめとする参加者の方に、日本文化紹介ボランティアの皆さんのご協力のもと、20人の定員もすぐにいっぱいになり、たくさんの方にお茶を楽しんでいただきました。





30年間の歩み

名称	設立 (移行年月日)	所在地	代表者	役員
任意団体 大垣国際交流協会 として発足	昭和 63 年 (1988 年) 9 月 3 日	大垣市丸の内 2 丁目 29 番地 大垣市役所内	河合 達雄	名誉会長 1 人 名誉相談役 2 人 相談役 5 人 顧問 77 人 会長 1 人 副会長 4 人 専務理事 1 人 常務理事 6 人 理事 21 人 監事 3 人
財団法人 大垣国際交流協会 設立	平成元年 (1989 年) 12 月 28 日	大垣市室本町 5 丁目 51 番地 スイトピアセンター内 (平成 4 年度 (1992 年度) から)	河合 達雄 (設立時) 土屋 嶋 平成 9 年 (1997 年) 12 月 25 日就任 田中 良幸 平成 21 年 (2009 年) 4 月 1 日就任	名誉会長 1 人 名誉相談役 2 人 相談役 5 人 顧問 77 人 会長 1 人 副会長 4 人 専務理事 1 人 常務理事 7 人 理事 24 人 監事 3 人
公益財団法人 大垣国際交流協会 移行	平成 24 年 (2012 年) 4 月 1 日		田中 良幸 (移行時) 日比 利雄 平成 28 年 (2016 年) 6 月 15 日就任	名誉会長 1 人 相談役 5 人 理事長 1 人 副理事長 2 人 常務理事 2 人 理事 5 人 監事 2 人 評議員 10 人

年度	大垣国際交流協会の主な出来事	社会の出来事
昭和 63 年度 (1988 年度)	<ul style="list-style-type: none"> 大垣国際交流協会、任意団体として発足 (9 月 3 日) (事務局を大垣市役所内に設置) 協会ニュース「フレンドリー」創刊 賛助会員募集、ボランティア登録始まる シンボルマーク決定 外国語講座始まる (現在も継続)  <p>▲シンボルマーク</p>   <p>▲設立総会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ソウルオリンピック開催 昭和天皇崩御、昭和から平成に改元

年度	大垣国際交流協会の主な出来事	社会の出来事
平成元年度 (1989 年度)	<ul style="list-style-type: none"> 大垣国際交流協会、財団法人となる (12 月 28 日) 国際理解講演会の開催 ホームステイ研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 消費税 (3%) の導入 ドイツ・ベルリンの壁、事実上崩壊
平成 2 年度 (1990 年度)	<ul style="list-style-type: none"> オーストラリア・コーフィールド市 (現グレンアイラ市) 中学生研修派遣始まる (現在も継続) アメリカ・パシフィック大学教育ホームステイツアー受入始まる 青年研修派遣始まる 国際交流団体への助成事業始まる (現在も継続)  <p>▲オーストラリア・コーフィールド市中学生派遣</p>	<ul style="list-style-type: none"> 統一ドイツ誕生 イラクがクウェートに侵攻、その後多国籍軍がイラクを攻撃し湾岸戦争に発展 出入国管理及び難民認定法の改正
平成 3 年度 (1991 年度)	<ul style="list-style-type: none"> オーストラリア・コーフィールド市 (現グレンアイラ市) 学生訪問団受入始まる 国際交流ボランティア研修会・交流会の開催 日本語基礎会話講座の開始 	<ul style="list-style-type: none"> ソビエト連邦解体 雲仙普賢岳で大火砕流発生 PKO 協法案成立
平成 4 年度 (1992 年度)	<ul style="list-style-type: none"> 事務局をスイトピアセンター内に移転 外国語による相談窓口設置 (現在も継続) 外国人による日本語スピーチ発表会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> バルセロナオリンピック開催 曙、大相撲初の外国人横綱に
平成 5 年度 (1993 年度)	<ul style="list-style-type: none"> 設立 5 周年を迎える (記念事業の実施、記念誌の発行) 市民参加によるフレンドリーシティツアーの実施 ボランティア部会 (通訳・翻訳、国際情報、日本文化紹介、ホームステイ・ホームビジット) 発足 国際交流員の受入始まる (平成 15 年度まで) 	<ul style="list-style-type: none"> 皇太子さま雅子さまご成婚 細川連立内閣発足 日本初のプロリーグ「Jリーグ」誕生
平成 6 年度 (1994 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ・シュツットガルト市中学生派遣始まる (現在も継続) 中国・邯鄲市学生訪問団受入始まる (現在も継続)  <p>▲ドイツ・シュツットガルト市中学生派遣</p>  <p>▲中国・邯鄲市学生訪問団受入</p>	<ul style="list-style-type: none"> 松本・地下鉄サリン事件 阪神・淡路大震災



年度	大垣国際交流協会の主な出来事	社会の出来事
平成7年度 (1995年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ・ベリア市中学生派遣始まる (平成9年度(1997年度)まで実施) ・ドイツ・シュツットガルト市学生訪問団受入始まる (現在も継続) ・国際交流スポーツフェスティバルの開催 (平成10年度(1998年度)まで実施) ・在住外国人の水まつりへの参加(平成12年度(2000年度)まで実施) ・入管法講座の開催 ・海外理解サロンの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・野茂英雄、米大リーグで新人王に ・ウインドウズ95、日本で発売
平成8年度 (1996年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ・ベリア市学生訪問団受入始まる (平成10年度(1998年度)まで実施) ・世界料理講座の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・アトランタオリンピック開催
平成9年度 (1997年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・中国・邯鄲市新体操団受入 ・西美濃地域国際交流担当者連絡会議の開催 ・在住外国人のための異文化体験(そば打ち、温泉)の実施 ・在住外国人市民との凧揚げ大会実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費税が3%から5%に引き上げ ・長野冬季オリンピック開催 ・香港、英国から中国に返還
平成10年度 (1998年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・在住外国人のためのマンツーマン方式による日本語指導始まる (現在も継続) ・在住外国人のホームビジットの実施 ・設立10周年を迎える(記念事業の実施、記念誌の発行) ・派遣団員OB会発足 	<ul style="list-style-type: none"> ・明石海峡大橋開通 ・EU単一通貨ユーロ導入
	  <p>▲国際交流スポーツフェスティバル ▲ドイツ・シュツットガルト市学生訪問団受入</p>	
	  <p>▲10周年記念事業 ▲10周年記念誌</p>	

年度	大垣国際交流協会の主な出来事	社会の出来事
平成11年度 (1999年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・中国・邯鄲市小・中学生派遣始まる(現在も継続) ・「ドイツにおける日本年」でシュツットガルト市へ代表団派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城県東海村で臨界事故 ・マカオがポルトガルから中国に返還
平成12年度 (2000年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・ベルギー・ナミュール市学生訪問団受入始まる(現在も継続) ・岐阜経済大学学園祭への参加 ・スィンク西濃への出店 ・在住外国人市民のための日本料理講座の開催 ・日本語指導ボランティア養成講座の開催(現在も継続) ・通訳ボランティア研修講座の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・シドニーオリンピック開催
	 <p>▲ベルギー・ナミュール市学生訪問団受入</p>	
平成13年度 (2001年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・ベルギー・ナミュール市中学生派遣始まる(現在も継続) ・オーストラリア・グレンアイラ市市民派遣 ・協会ホームページ開設 ・ポルトガル語生活情報紙「AMIGO」発行 (現在は大垣市が発行) ・外国人集住都市会議へのオブザーバー参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ同時多発テロ事件
平成14年度 (2002年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人市民の十万石まつりへの参加(現在も継続) ・日本語指導者交流会の開催 ・各国紹介講座の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカーWC日韓大会開催 ・小泉首相が日本の首相として初めて北朝鮮を訪問、北朝鮮拉致被害者のうち5人が帰国
	 <p>▲外国人市民の十万石まつりへの参加</p>	
平成15年度 (2003年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・中国語生活情報誌「聊天亭」の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本郵政公社発足 ・鳥インフルエンザ発生
平成16年度 (2004年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人市民のための和服体験始まる(現在も継続) ・ブラジル人児童への日本語教室開催 ・外国人市民への中高生による日本語指導開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・アテネオリンピック開催
平成17年度 (2005年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人市民のための法律相談会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・中部国際空港開港 ・愛知万博「愛・地球博」開催



年度	大垣国際交流協会の主な出来事	社会の出来事
平成 18 年度 (2006 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリア・グレンアイラ市小・中学生派遣始まる (現在も継続) ・災害ボランティア研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・皇室に 41 年ぶりの男子、悠仁さま誕生
平成 19 年度 (2007 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・「中国へ行くこう邯郸市訪問の旅 北京・西安 歴史文化探訪の旅」実施 ・ブラジル人のための日本語クラスの開催 ・中国人のための日本語クラスの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本郵政グループ発足 ・中越沖地震
平成 20 年度 (2008 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・設立 20 周年を迎える (記念事業の実施、記念誌の発行) ・日本人ブラジル移住 100 周年記念行事の実施 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>▲ 20 周年記念事業 ▲ 20 周年記念誌</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道で洞爺湖サミット開催 ・リーマンショック起こる
平成 21 年度 (2009 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの集い (ボランティア交流会) 始まる (現在も継続)  <p>▲ ボランティアの集い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・裁判員制度施行
平成 22 年度 (2010 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・海外研修派遣団員の報告会始まる (現在も継続) ・子どもを対象とした「えいごであそぼう」を実施 (スイトピアセンター子どもまつり協賛事業) ・にほんごおしゃべりルーム始まる (現在も継続) 	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・大垣国際交流協会、公益財団法人となる (4 月 1 日) ・通訳ボランティア (災害時) 講座実施 ・ボランティアグループリーダー会議の実施 ・行政書士による行政手続き相談会、年 1 回の実施が毎月実施となる (現在も継続) ・就学前外国人児童日本語等指導事業 (プレスクール・きらきら教室) (大垣市委託事業) 始まる (現在も継続) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぎふ清流国体・ぎふ清流大会開催

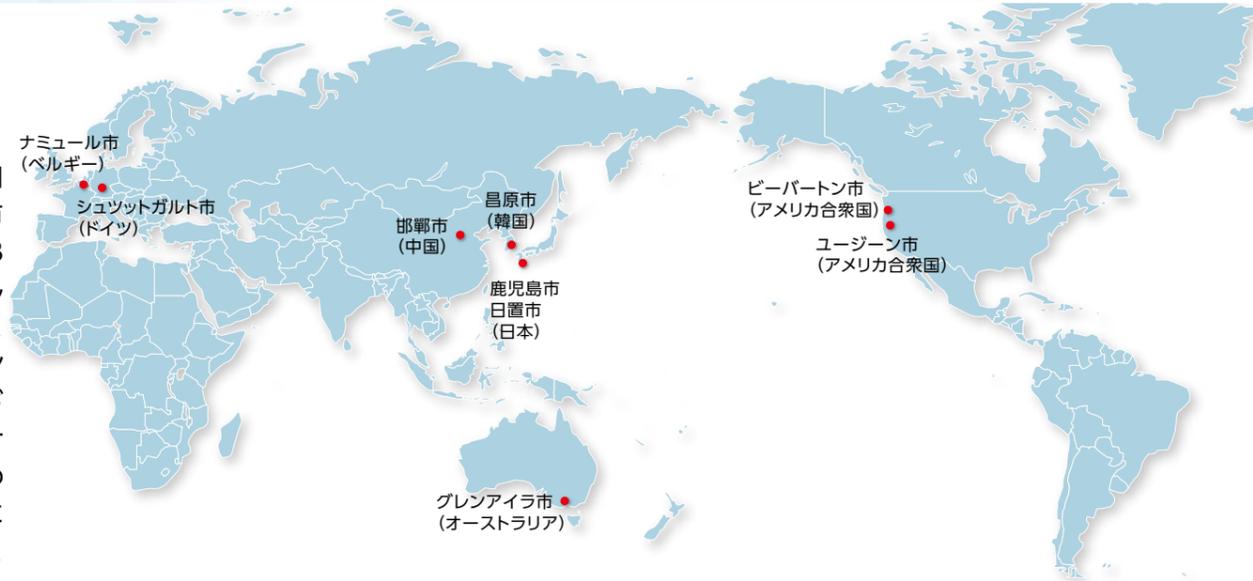
年度	大垣国際交流協会の主な出来事	社会の出来事
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・設立 25 周年を記念して、協会ニュース「フレンドリー 77 号」を発行 ・海外研修派遣団員の集い (25 周年記念事業) 実施 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>▲ 海外研修派遣団員の集い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富士山が世界文化遺産に登録 ・2020 年夏季五輪開催地が東京に決定
平成 26 年度 (2014 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導ボランティア交流会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費税が 5% から 8% に引き上げ ・御嶽山噴火
平成 27 年度 (2015 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・フレンドリーシティ、アメリカ・ベリア市との交流に代わり、ビーバートン市、ユージーン市との交流が始まる ・外国人市民のための茶道・尺八・琴体験実施  <p>▲ 外国人市民のための茶道・尺八・琴体験</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マイナンバー制導入
平成 28 年度 (2016 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国・ビーバートン市、ユージーン市高校生派遣事業始まる (現在も継続) ・ポルトガル語によるこころの相談始まる (現在も継続) ・文化庁の委託を受けた日本語学習支援事業始まる (現在も継続) (日本語教室、日本語指導ボランティア講座、日本語学習教材の作成) ・外国人市民のための琴・書道体験実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震
平成 30 年度 (2018 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・設立 30 周年を迎える ・設立 30 周年記念誌の発行、30 周年記念事業「フレンドリーシティ交流と多文化共生の集い」実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・出入国管理及び難民認定法の改正



フレンドリーシティ交流

大垣市のフレンドリーシティ紹介

大垣市では、市民が主体となって積み重ねてきた民間交流を核に、国の内外を問わず、また、形式にとらわれることなく、「市民と市民」、「都市と都市」が相互理解と友情の絆を強めて親善を図っていくため、昭和63年(1988年)、市制70周年を記念して、フレンドリーシティ交流を開始しました。当時はアメリカ合衆国・ベリア市、韓国・昌原(チャンオン)市、オーストラリア・コーフィールド市(現グレンアイラ市)、中国・邯鄲(ハンダン)市、ドイツ・シュツットガルト市、日本・鹿児島市(日置市)との交流が展開されました。市制80周年、平成10年(1998年)にはベルギー・ナミュール市、市制90周年、平成20年(2008年)には日本・日置市が加わりました。更に、平成27年(2015年)には、アメリカ合衆国・ベリア市に代わって、ビーバートン市、ユージーン市が加わり、現在は、海外7都市、国内2都市のフレンドリーシティと友情の輪をひろげています。



ビーバートン市[アメリカ合衆国]



人口 約10万人 面積 約51km²

【特徴】 ビーバートン市は、アメリカ西海岸にあるオレゴン州の都市です。

州最大都市のポートランド至近にあるため、商業地区へのアクセスがよく、スポーツメーカーのナイキ本社やIT関連企業が立地し産業が盛んな一方、自然豊かな渓谷に恵まれ、家族と暮らしやすいまちとして知られています。

市内には日本語教育プログラムをもつ高校が複数あり、日本文化への関心が高いまちでもあります。



ナミュール市[ベルギー]



人口 約11万人 面積 約176km²

【特徴】 ナミュール市は、ベルギーのほぼ中央、首都ブリュッセルの南東60kmに位置するナミュール州の州都です。

市の中心部には、サンプル川とムーズ川が合流し、古くから交通の要衝として栄えたことから、中世には軍事の要衝として多くの城砦が築かれました。街並みには、その歴史遺産が今も引き継がれ、中世ヨーロッパの面影を残す景観は「ムーズ川の真珠」と讃えられています。

市内には、観光名所の「城砦」をはじめ、世界遺産の「鐘楼」があるなど、歴史・文化が息づく都市です。



シュツットガルト市[ドイツ]



人口 約61万人 面積 約207km²

【特徴】 シュツットガルト市は、ドイツ南西部に位置するバーデンヴェルテンベルク州の州都です。

日本にも馴染みの深い自動車メーカーのポルシェやメルセデス・ベンツが本社を構え、ドイツを代表する自動車産業のまちとして知られています。また、一方でワイン生産も盛んで、郊外にはぶどう畑の美しい田園風景が広がっています。

1993年には陸上競技のビッグイベント「世界陸上」が開催されたほか、バレエやオペラ、映画などの文化面でも国際的なイベントが開催されるなど、国際都市でもあります。



邯鄲(ハンダン)市[中国]



人口 約1,015万人 面積 約12,000km²

【特徴】 邯鄲市は、中国沿岸部に位置する河北省南部の都市です。中国・戦国時代には趙の首府が置かれたことから、中国の古都として広く知られているほか、秦の始皇帝の出身地でもあり、歴史・文化遺産の豊富なまちでもあります。こうした歴史に根ざした邯鄲市には、この地にちなんだ故事成語が今も多く伝えられ、とりわけ「邯鄲の夢」は日本人にも馴染みの深い故事として有名です。

近年は、石炭・鉄鉱石などの豊富な地下資源を生かし、石炭業やセメント製造、鉄鋼業などを中心とした工業都市として発展をしています。



昌原(チャンオン)市[韓国]



人口 約107万人 面積 約743km²

【特徴】 昌原市は、韓国南部に位置する慶尚南道の行政、文化、産業の中心都市です。

1970年代に韓国の重化学工業化政策の下、最初の計画都市として開発が進み、現在では世界的企業が集積する工業都市として知られています。

一方で、ラムサール条約締結国会議に参加し、積極的に渡り鳥などの環境保護にも力を入れています。

2010年には、馬山(マサン)市、鎮海(ジンヘ)市と合併し、人口100万人を超す大都市となりました。



グレンアイラ市[オーストラリア]



人口 約15万人 面積 約39km²

【特徴】 グレンアイラ市は、オーストラリアの東南端に位置するビクトリア州にあり、州都メルボルンからは東南11kmの近郊にあります。

ビクトリア州は「ガーデンステート」と言われているほど、緑化政策が進んでいるため、市内には、緑地や公園が広がり、自然豊かな都市です。

また、1879年の創設以来100年以上の歴史を持つ伝統的国際G1競馬「コーフィールドカップ」が行われるコーフィールド競馬場があることでも広く知られています。



ユージーン市[アメリカ合衆国]



人口 約16万人 面積 約115km²

【特徴】 ユージーン市は、アメリカ西海岸のオレゴン州にあり、州内で2番目の人口規模を誇る都市です。

市内には、日本からの留学生が多いオレゴン大学などが立地し、教育環境に恵まれた学園都市です。

また、日本語教育プログラムをもつ小学校や高校が複数あり、日本文化への関心が高いまちでもあります。





新たな交流スタート! 大垣市とビーバートン市、ユージーン市とのフレンドリーシティ交流

平成27年(2015年)11月、アメリカ合衆国、オレゴン州のビーバートン市、ユージーン市の2都市が、大垣市のフレンドリーシティに加わりました。小川敏大垣市長を団長とする7人の訪問団が、平成27年(2015年)11月6日～11月13日の8日間で両市を訪問し、両市の市長との面談でフレンドリーシティ交流の開始を確認し、日本語教育が行われている学校、企業視察などを行いました。



▲小川市長とビーバートン市の
デニー・ドイル市長



▲小川市長とユージーン市の
キティ・ピアシー市長(当時)



▲ユージーン市にあるオレゴン大学

<交流の契機>

平成2年(1990年)にオレゴン異文化交流協会の高校生訪問団が大垣市を訪問したことがきっかけであり、これ以降、市内で活動する国際交流団体WING(ウイング)が中心となって受入れを毎年行ってきました。

この訪問団は主にビーバートン市とユージーン市の高校生で構成され、これまでに数多くの両市の高校生が大垣市でホームステイや学校訪問などを通して交流してきました。

こうした長年に亘る両市との交流から、大垣市長が両市長を表敬訪問し、正式にフレンドリーシティ交流がスタートしました。



ビーバートン市(Beaverton)



▲ビーバートン市庁舎



▲街中を走る路面電車



▲街路樹が美しい市街地



▲街中を走る路面電車



ユージーン市(Eugene)



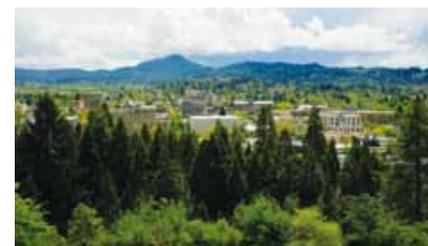
▲ユージーン市庁舎



▲赤レンガ造りのオレゴン大学



▲2021年に世界陸上が行われる競技場



高校生研修派遣事業

フレンドリーシティ交流の開始を受け、大垣国際交流協会では、平成28年度(2016年度)から両市への高校生研修派遣事業を開始し、毎年実施しています。現地では、ホームステイをしながら、学校訪問や市表敬訪問、大学訪問などをしました。

高校訪問

どの授業もとてもアクティブで生徒主体の授業ばかりでした。生徒がいてこそ成り立つ授業だと感じました。日本では、先生の話を一方向的に聞くという授業が一般的なため、アメリカの授業がとても新鮮でした。また、どの生徒も積極的に分からないところがあるとすぐに手を挙げ、先生に質問していました。そして、どの生徒が当てられても、自分分かったところまででも、自分の意見を怖気づくことなく堂々と発表していました。このことは、私も含め多くの日本人が苦手とすることだと思うのですが、同時に見習っていきたくと思いました。(派遣団員の報告書より)



ホームステイ



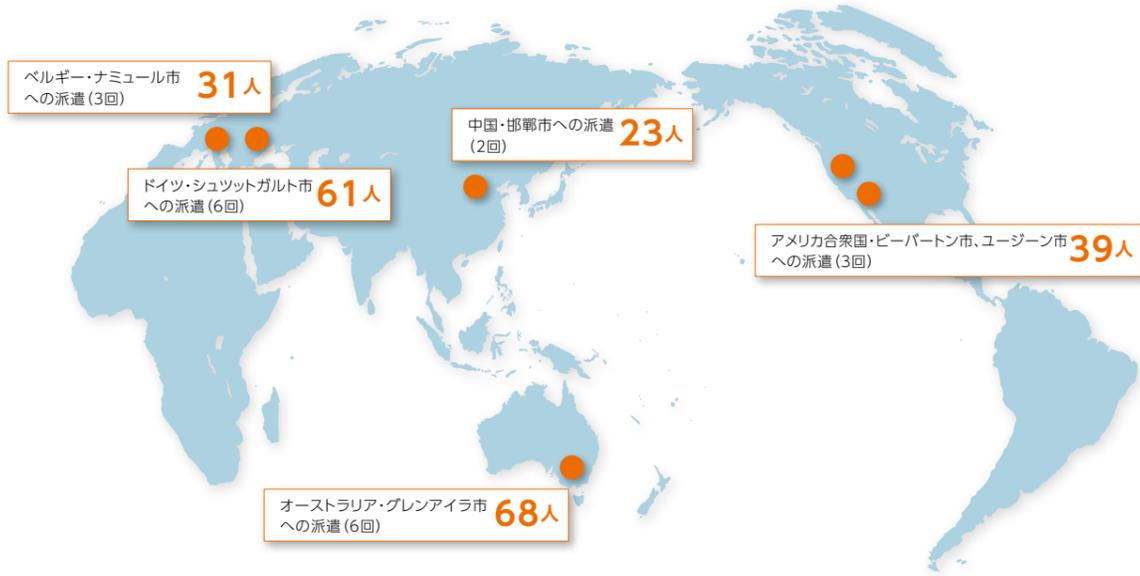
自分の思いを伝えることや、相手を理解することの難しさや重要性、それができたときの喜びや充実感など、9日間で一人ひとりが言語の壁をどのようにして越えるかという課題を模索し、自分の出来る最大限を尽くした。感謝や喜びを笑顔で伝えることなど、どれも完璧にできたわけではないが、そのようなコミュニケーションを通して現地の人とかけがえのない絆を結ぶことができた。

この研修を通して学んだ日本とアメリカの文化の違い、高まった言語能力、海外に対する意識、そして現地の人と結んだ絆など、かけがえのない宝物をたくさんつくることができた僕たちだからこそ、将来的には積極的な国際交流をしていきたいと強く感じている。この経験を必ず自分達の糧として、誇りとして、人生にわたって生かしていきたい。(派遣団員の報告書より)



フレンドリーシティ派遣事業 [平成20年度(2008年度)～30年度(2018年度)の交流]

平成20年度(2008年度)から平成30年度(2018年度)の11年間で、フレンドリーシティ6都市へ20の派遣事業を実施しました。小学生から高校生を対象に、計222人を派遣しました。



平成20年度(2008年度)

◆第7回中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣団(7/20～7/27)

- 団長 棚橋 弘(興文中校長)
- 総務 柴田 りえ(興文中教諭)
- 団員 佐竹 梨沙(興文中)
- 時田 彩香(赤坂中)
- 日比野亜衣(西部中)
- 藤原 光梨(北中)
- 川上 真由(赤坂中)
- 小林 真美(星和中)
- 西脇慎一郎(東海中)



◆第2回小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣団(8/24～8/31)

- 団長 堀 憲司(川並小校長)
- 総務 廣瀬百合子(中川小教諭)
- 団員 平井 開都(興文小)
- 久世さくら(北小)
- 吉村彩理華(中川小)
- 酒井美乃理(青墓小)
- 三輪 圭司(多良小)
- 矢野 凱(東中)
- 長屋 由紀(興文中)
- 丹羽 麻有(興文中)
- 川瀬 友可里(西中)



平成22年度(2010年度)

◆第8回中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣団(7/21～7/28)

- 団長 岩田健次郎(星和中校長)
- 総務 増田 裕子(南中教諭)
- 団員 大久保伶美(東中)
- 西脇ひかる(南中)
- 柳瀬 貴大(北中)
- 浅井 有希(北中)
- 浅野 晃平(江並中)
- 伊藤恵里奈(江並中)
- 井戸 優果(西部中)
- 渡部 真実(愛知淑徳中)



◆第3回小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣団(8/22～8/29)

- 団長 宇佐美新晶(日新小校長)
- 総務 吉安 三恵(大垣国際交流協会)
- 団員 佐宗 叶(興文小)
- 岩崎 純兵(北小)
- 永井 あや(興文小)
- 林 香里(中川小)
- 早野 詩織(興文小)
- 松岡真里奈(興文小)
- 小野 史織(東中)
- 松居 礼華(北中)
- マルチンス イザベラ(西中)



平成23年度(2011年度)

◆第5回中学生ベルギー・ナミュール市研修派遣団(9/17～9/24)

- 団長 奥田 修二(東中校長)
- 総務 森下 直美(赤坂中教諭)
- 団員 井戸 瑞歩(西部中)
- 大谷 怜(上石津中)
- 中里 智絵(東中)
- 松井 悠雅(南中)
- 青井 萌華(興文中)
- 大角 碧唯(江並中)
- 小倉莉緒奈(星和中)
- 藤原 千華(北中)



◆第8回小・中学生中国・邯鄲市研修派遣団(8/18～8/24)

- 団長 谷口 隆康(一之瀬小校長)
- 総務 藤田 康代(大垣国際交流協会)
- 団員 甲斐 紫音(北小)
- 高山 宝也(興文小)
- 中島 朱里(興文小)
- 渡邊 大智(安井小)
- 柏 陽菜乃(南小)
- 酒井 梨緒(赤坂小)
- 篠原 大弥(中川小)
- 浅野 出帆(東中)
- 田中 利果(聖マリア女学院中)



平成24年度(2012年度)

◆第9回中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣団(7/24～7/31)

- 団長 鷲野 善仁(赤坂中校長)
- 総務 山之内佳奈(西中教諭)
- 団員 安田 かな(岐阜聖徳学園附属中)
- 青木 遥果(東中)
- 小島悠太郎(興文中)
- 澤木 愛(南中)
- 平松 由貴(愛知淑徳中)
- 吉安 潤菜(興文中)
- 高橋 淳(東海中)
- 日比野有紗(金城学院中)



◆第4回小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣団(8/21～8/28)

- 団長 大野上喜雄(青墓小校長)
- 総務 他田 美穂(小野小教諭)
- 団員 岡田 美沙(東小)
- 鍵本なつみ(中川小)
- 高橋 萌(日新小)
- 濱田 翔太(興文小)
- 山崎 二葉(北小)
- 新井 亮介(西部中)
- 日比野阿美(西中)
- 山本 玲(愛知淑徳中)
- 廣田 怜奈(西部中)



平成25年度(2013年度)

◆第6回中学生ベルギー・ナミュール市研修派遣団(9/21～9/28)

- 団長 服部 敦弘(上石津中校長)
- 総務 奥田 裕一(興文中教諭)
- 団員 浅野 晋平(江並中)
- 岡田 菜月(赤坂中)
- 栗田 実果(東安中)
- 田辺 綾夏(東中)
- 渡部 尚(赤坂中)
- 川崎英理奈(北中)
- 田中 健斗(興文中)
- 古屋 皇湖(北中)



▲ナミュールのホストファミリーと一緒に

平成26年度(2014年度)

◆第10回中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣団(7/22～7/29)

- 団長 加藤 栄二(時小校長)
- 総務 小林 誠(西部中教諭)
- 団員 大角 桃菜(江並中)
- 奥田 結衣(興文中)
- 松井 勇樹(西中)
- 三宅 唯介(上石津中)
- 伊藤 理沙(北中)
- 高山 紗希(星和中)
- 桑原 宏太(赤坂中)
- 矢野 愛香(南中)



◆第5回小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣団(8/19～8/26)

- 団長 河合 鋭夫(南中校長)
- 総務 野村 加奈(江並中教諭)
- 団員 志知 真帆(日新小)
- 中島明日香(中川小)
- 廣瀬 朱音(静里小)
- 村田 純奈(綾里小)
- 河村 雪乃(東中)
- 澤田 大雅(東海中)
- 中尾 優里(南中)
- 西脇 茉生(赤坂中)
- 松本 伽音(江並中)





平成28年度(2016年度)

◆第11回中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣団(7/26~8/2)

- 団長 山本 学(東中校長)
- 総務 小窪 裕香(東中教諭)
- 吉安 三恵(大垣国際交流協会)
- 団員 榎並 美月(東中)
- 河原 智華(西部中)
- 伊藤 大記(星和中)
- 河村 綾乃(東中)
- 高木 里桜(江並中)
- 永井かのん(北中)
- 中村 伊吹(興文中)
- 棚橋 美友(星和中)



◆第6回小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣団(8/17~8/24)

- 団長 酒井 俊亘(南小校長)
- 総務 河村 麻衣(西部中教諭)
- 臼井 伶佳(大垣国際交流協会)
- 団員 江原 煌子(安井小)
- 中西 未来(日新小)
- 三輪 七星(多良小)
- 安田 翔星(綾里小)
- 中尾 友紀(南中)
- 森川 鈴菜(赤坂中)
- 中里 友佳(東中)
- 松本 優羽(江並中)
- 山崎 美弥(北中)



平成30年度(2018年度)

◆第12回中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣団(7/21~7/28)

- 団長 堀田 一浩(南中校長)
- 総務 高木 あや(星和中教諭)
- 熊谷 康宏(大垣国際交流協会)
- 団員 海老 杏喜(西中)
- 河瀬 真由(北中)
- 河村 瑞乃(東中)
- 木曾 媛香(東中)
- 桑原 光汰(星和中)
- 松藤 羽南(東中)
- 渡部 明希(名古屋国際中)
- 柴田 理名(愛知淑徳中)



◆第7回小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣団(8/15~8/22)

- 団長 小藪 卓郎(綾里小校長)
- 総務 多和田泰子(星和中教諭)
- 吉安 三恵(大垣国際交流協会)
- 団員 野上 優衣(東小)
- 原 康晟(興文中)
- 岩津 有希(西部中)
- 岡田 真紘(星和中)
- 三宅 泉恋(上石津中)
- 山 慧太郎(興文中)
- 山村 心愛(西中)
- 種田 逸真(東中)
- 吉田菜乃花(赤坂中)



◆第1回高校生アメリカ合衆国オレゴン州ビーバートン市・ユージーン市研修派遣団(10/14~10/22)

- 団長 石神 政幸(大垣北高校教頭)
- 総務 安藤万莉英(大垣北高校教諭)
- 吉安 三恵(大垣国際交流協会)
- 団員 川瀬 咲来(大垣北高校)
- 木田 有紗(大垣北高校)
- 木村 莉子(大垣北高校)
- 子安 紗世(大垣北高校)
- 鷺見 拓哉(大垣北高校)
- 豊田 萌(大垣北高校)
- 橋本 侑奈(大垣北高校)
- 箕浦 将也(大垣北高校)
- 山戸 丈明(大垣北高校)
- 由井香菜子(大垣北高校)



▲シュツットガルトのホストフレンドと動物園にて

◆第3回高校生アメリカ合衆国オレゴン州ビーバートン市・ユージーン市研修派遣団(10/11~10/19)

- 団長 社本 久夫(大垣国際交流協会)
- 総務 加藤 咲子(大垣国際交流協会)
- 吉安 三恵(大垣国際交流協会)
- 団員 多賀 文香(大垣北高校)
- 豊田 花帆(大垣東高校)
- 松本 唯愛(大垣北高校)
- 馬淵ひなた(大垣北高校)
- 吉川 清菜(大垣北高校)
- 鈴木 花歩(大垣東高校)
- 西村 結(大垣東高校)
- 服部 楓(大垣東高校)
- 花木 琉里(大垣北高校)
- 早藤 瑞起(大垣北高校)



▲グレンアイラの学校で交流

平成29年度(2017年度)

◆第7回中学生ベルギー・ナミュール市研修派遣団(9/16~9/23)

- 団長 伊藤 敦(西中校長)
- 総務 野村 真也(東中教諭)
- 吉安 三恵(大垣国際交流協会)
- 岩下菜々香(南中)
- 川添 有希(星和中)
- 国枝 里佳(北中)
- 矢橋 舞美(赤坂中)
- 金山 理子(赤坂中)
- 高橋 優(西中)
- 福田 遥(滝中)
- 古田 奈央(西中)



◆第9回小・中学生中国・邯鄲市研修派遣団(8/17~8/23)

- 団長 比留木 修(宇留生小校長)
- 総務 渡邊 竜也(南小教諭)
- 松原 玉林(大垣国際交流協会)
- 団員 郡 隆吾(北小)
- 後藤 大輝(北小)
- 里 夏妃(北小)
- 中村 心季(南小)
- 林 暖乃(赤坂小)
- 増田 虹帆(赤坂小)
- 家倉 隆慶(興文小)
- 内山 侑(江東小)
- 名和 薫乃(日新小)



◆第2回高校生アメリカ合衆国オレゴン州ビーバートン市・ユージーン市研修派遣団(10/13~10/21)

- 団長 安藤 光男(大垣国際交流協会)
- 総務 加藤 咲子(大垣国際交流協会)
- 吉安 三恵(大垣国際交流協会)
- 団員 奥村芽里依(大垣北高校)
- 高橋 佑衣(大垣北高校)
- 水谷 優太(大垣東高校)
- 鈴木 結理(大垣東高校)
- 高橋 大地(大垣北高校)
- 日比 萌咲(大垣北高校)
- 松岡 真生(大垣北高校)
- 茂木 智早(大垣東高校)
- 山内 優佳(大垣南高校)
- 若原 尚真(大垣北高校)



▲ナミュールの中学生と交流



▲仲良かったオレゴンの高校生と



▲邯鄲で太極拳を教えてもらいました



▲仲良かったグレンアイラの中学生



▲シュツットガルトの高校生と交流



フレンドリーシティ派遣事業団員OBの体験談・メッセージ

30周年記念事業「フレンドリーシティ交流と多文化共生の集い」において、フレンドリーシティ派遣事業団員OBの3人に体験談や派遣を経ての思いなどを話してもらいました。



家倉 隆慶さん

平成 29 年度
中国・邯鄲市
小・中学生派遣団員

僕は、中国の研修を通して多くのことを学びました。そして、その中でも特に二つのことが今、生活の中に生かされていると思います。

一つ目は、仲間を大切にすることです。僕は中国の研修で改めて仲間の大切さに気づけました。分からないことがあった時には、進んで教えてくれたり、困っている時には助けてくれたりしました。とてもうれしくて心が温かくなりました。中国の研修は、本当の「仲間」の意味を教えてくださいました。だから、僕は今とても仲間を大切にしています。

二つ目は、違う国の文化や言語に興味を持てたことです。中国には、5千年の歴史がありました。日本と違う食べ物や習慣、言語などがたくさんあり、驚きました。もっ



中国の学生との交流▶

と もっと文化の違いについて知りたいと思いました。だから、僕は、半年前に少年の船に応募しました。それで大垣市の代表として、鹿児島に研修に行きました。同じ日本でも、文化が違うことを知りました。更に広い世界を見てみたいと思いました。

僕はこれからたくさんの人と関わっていきと思うので、「仲間」を大切にしていきたいし、もっともっと広い世界に足を踏み出して多くのことを知っていきたいです。



川添 有希さん

平成 29 年度
ベルギー・ナミュール市
中学生派遣団員

私はもともと海外の音楽や文化に興味がありました。音楽は、ウクレレやギターを弾いたり、フラダンスを踊ったりしています。そして、小さい頃から英語を習っている影響もあり、邦楽・洋楽・K-POP・ロック・ハワイアンなど、様々なジャンルの音楽に興味があります。

国によって今までたどってきた歴史が全く違うので、現在の環境や文化もその国ならではのものが山ほどあります。それが新鮮でとても楽しいし、自分の知る世界が広がってワクワクするので、中学2年生の時に、ベルギー・ナミュール市研修派遣に挑戦しようと決めました。

現地の人とはとても温かくフレンドリーな印象で、自然が豊かで建物は西洋の雰囲気がとても美しかったです。特に印象に残ったのは、ホストファミリーと街を歩いていた時に、ホストマザーは初対面の店員さんと挨拶を交わし気軽に会話をしていたり、学校を訪問した時に、積極的に私に説明や質問してくれる生徒が多かったことです。

ベルギーの人々と触れ合っ感じた積極性が、日本にはないものだと思って、とても刺激的でした。

私は事前研修から事後研修まで4ヶ月一緒に頑張った



◀ベルギーのホストファミリーと



▲ベルギーの中学生との交流

派遣団員の仲間やベルギーのホストファミリー、市民の方との交流を通して海外の文化により興味を持ち、自分の英語力と状況打開力にも自信を持つことができました。そして「長期留学に挑戦して、自分の英語力をもっと高めたい!」と思うようになり、中学3年生で英検2級を取得し、国際科があり1年間留学できる高校に進学することにしました。

私はこの研修を通して出会った素敵な仲間やベルギーの友達など、様々な人との関わりがあったからこそ、自分の意思を持って自分らしい進路を選べたと思います。

人と交流することで互いの見える世界が広がり、互いの人生がより豊かになっていくことを知りました。そして、これからは自分だけでなく、たくさんの人の見える世界を広げていくために、もっと多くの言語を身につけて、いろいろな人と積極的に関わっていくことを大切にしていきたいです。



大角 碧唯さん

平成 23 年度
ベルギー・ナミュール市
中学生派遣団員

平成23年(2011年)の秋、ベルギー・ナミュール市への派遣に参加させていただきました。私にとって初めての海外経験でした。見えるもの、聴こえてくるものすべてが日本と大きく違い、物珍しさに五感をフル活用し

ていた事を覚えています。ホームステイや派遣プログラムを通して、日本での自分のライフスタイルや考え方が、当たり前ではないことに気づきました。そして多種多様なスタイルを、受け入れることと認め合うことの大切さを学ぶこともできました。派遣事業をきっかけに、私の海外への興味関心や考え方の視野が大きくなったと思っています。

私は名古屋の大学で、看護を学んでいます。昨年の夏は、大学間の交換研修の一貫でシンガポール国立大学に行きました。シンガポールは中国系、イスラム系、マレー系などで構成される多民族国家です。それゆえに宗教上の考えに配慮した病室や治療現場の実際を見ることができ、どんな背景をもつ国民でも生活しやすいよう、柔軟に対応している国だと感じました。またシンガポールの教授から、日本を手本にシンガポール全体で、国民が健康を維持しながら生きられる予防的的社会システム作りを進めていると聞き、日本の健康面の良さを誇りに思いました。

ありがたいことに、妹もドイツのシュツットガルト市への派遣に参加し、その時のホストシスターは我が家にホームステイもしてくれました。私たちはお互いSNSで連絡をとっており、昨年のクリスマスはドイツのホストシスター宅でクリスマスイブを過ごすこともできました。2020年に彼女は大学の短期留学で、また来日してくれるそうです。派遣を通してできたご縁は、今でも続いています。

私はフレンドリーシティ派遣団員として海外に行き、人との深い関わりがあって、本当に良かったなと心から思います。積み重ねてきた経験や学びを生かして、今後、人々の健康維持と時代や生活の変化に合わせた社会システム作りに関わられたらと考えています。



▲大学から派遣されたシンガポールでの研修



▲我が家で受け入れをしたドイツのホストシスターとの再会



フレンドリーシティからの受入 [平成 20 年度(2008年度)～30 年度(2018年度)の交流]

大垣市のフレンドリーシティから、学生訪問団の受入れをしています。
 滞在中は、市民の皆さんの家庭にホームステイをして、日本の生活を体験しながら、大垣市表敬訪問、学校訪問や日本文化体験などを行っています。
 日本や大垣の理解を深めてもらうと共に、大垣市と各都市との友好を深めています。

◆中国・邯鄲市からの学生訪問団

年度	受入期間	受入人数	ホームステイ受入家庭数
平成 20 年度 (2008年度)	7/30～8/8	12人 学生 10人、引率者 2人	12 家庭
平成 22 年度 (2010年度)	7/26～8/3	13人 学生 10人、引率者 3人	10 家庭
平成 24 年度 (2012年度)	8/1～8/9	12人 学生 9人、引率者 3人	9 家庭



▲ホストファミリーとお出かけ



▲大垣城見学



▲小学校で英語の授業に参加



▲大垣市表敬訪問



▲華道体験

◆ドイツ・シュツットガルト市からの学生訪問団

年度	受入期間	受入人数	ホームステイ受入家庭数
平成 21 年度 (2009年度)	9/25～10/2	15人 学生 13人、引率者 2人	15 家庭
平成 24 年度 (2012年度)	4/3～4/11	15人 学生 13人、引率者 2人	15 家庭
平成 25 年度 (2013年度)	10/2～10/10	15人 学生 13人、引率者 2人	15 家庭
平成 27 年度 (2015年度)	9/30～10/9	15人 学生 13人、引率者 2人	15 家庭
平成 29 年度 (2017年度)	9/27～10/4	15人 学生 13人、引率者 2人	15 家庭

◆ベルギー・ナミュール市からの学生訪問団

年度	受入期間	受入人数	ホームステイ受入家庭数
平成 20 年度 (2008年度)	10/27～11/1	9人 学生 7人、引率者 2人	8 家庭
平成 22 年度 (2010年度)	11/1～11/6	7人 学生 6人、引率者 1人	7 家庭
平成 26 年度 (2014年度)	10/27～11/1	10人 学生 9人、引率者 1人	10 家庭
平成 28 年度 (2016年度)	10/30～11/4	13人 学生 12人、引率者 1人	13 家庭
平成 30 年度 (2018年度)	10/27～11/2	15人 学生 13人、引率者 2人	15 家庭

団体やグループなどによる交流

韓国・昌原(チャンオン)市

大垣竹の子会

韓国・昌原青年会議所との交流

会長 堀 陽介

公益財団法人大垣国際交流協会の創立 30 周年を心からお慶び申し上げます。

大垣竹の子会は昭和 60 年(1985年)以来、昌原青年会議所と友好交流をさせていただいております。平成 9 年(1997年)11 月からは海外児童文化交流として、大垣市と昌原市の小学生の交流事業がはじまりました。現在では様々な社会情勢もあり、小学生の交流事業は行っておりませんが、多くの先輩方が築き上げてこられた友好関係を大切に、大垣竹の子会と昌原青年会議所の会員同士の絆はより一層親密なものになっております。

大垣竹の子会が 7 月に行う総会懇親会という事業と、昌原青年会議所が毎年 11 月頃に行う会長就任式には行き来し合い、新たな会長の船出を共にお祝いするとともに、会員同士の交流も図ります。

近年では、平成 30 年(2018年)12 月に昌原に伺った際には、大垣市制 100 周年事業の一環で行われた朝鮮通信使行列に来垣していただいた昌原市副市長をはじめ、5 名の訪問団の皆様も交えての懇親会や、翌日には昌原青年会議所と共に市役所に表敬訪問に伺うなど、私達の交流が大垣市と昌原市のさらなる友好の架け橋となっていることを改めて実感しました。これからも誇りを感じ、さらなる交流をしてまいりたいと思います。



▲昌原 JC 会長就任式

大垣少年少女合唱団

韓国・昌原市立少年少女合唱団との交流

団長 早崎 桂子

公益財団法人大垣国際交流協会の創立 30 周年を心からお祝い申し上げます。

平成 11 年(1999 年)に開始した昌原市少年少女合唱団との交流(演奏会と 3 泊 4 日のホームステイ)には、延べ 1,200 名が参加したことになります。

東日本大震災が起きた平成 23 年(2011 年)。大垣市での交流開催に、一抹の不安を感じていました。昌原市からは、「こういう時だからこそ、お見舞いに行きたい」と温かい返答を得て、交流が実現しました。また、昌原団員のホームステイ先では、わが子のように接してくださったアボジとオモニ。いただいた温かいお心は、団員の生涯の宝物になるでしょう。人と人との結びつきほど強いものではありません。互いの文化や歴史を理解し良さを学び合い、交流を継続することが、国際社会に生きる子ども育成の基となると確信しています。

平成 24 年(2012 年)、大勢の皆様からご支援をいただき継続した青少年音楽交流に対して、高円宮日韓交流基金より「高円宮賞」を受賞しました。しかし、ここ 5 年、様々な諸事情で青少年音楽交流が止っています。草の根交流を再開したいと強く願っています。



▲交歓演奏会(スイトピアセンターにて)



公益財団法人大垣市体育連盟 韓国青少年スポーツ相互交流

会長 堤 俊彦

公益財団法人大垣国際交流協会の創立 30 周年を心からお慶び申し上げます。

本連盟は、大垣竹の子会と昌原市青年会議所との長年の交流が基となり、昭和 63 年 (1988 年) の大垣市制 70 周年記念事業での日韓実業団サッカー親善試合、翌年の昌原市テコンドーチーム招聘、そして昌原市青年会議所の林鍾録さんをはじめ関係各位のご協力、ご支援により、平成 2 年 (1990 年) 本市スポーツ少年団員の代表を昌原市に派遣し、スポーツによる交流がスタートしました。その後、スポーツ少年団員代表の派遣が平成 6 年 (1994 年) まで継続される中で、両市間の相互交流についての協議が進み、平成 8 年 (1996 年)、スポーツによる相互交流合議書調印を経て、同年初めて昌原市のサッカーチームを受入れ、相互の交流が実現したのです。

伝染病の流行や両国間の事情により本市の派遣事業が 2 回中止されましたが、これまで 10 回の相互交流により、両市合わせて 400 人程の青少年が、サッカーの交流試合やホームステイなどを体験し、両市の友好親善を深めてきました。

今後は、両市との相互交流が継続されることはもちろん、サッカーに留まらず、バドミントンやバレーボールなど数々のスポーツへの広がりを見せ、次代を担う国際感覚を持ったリーダーの育成に努めるだけでなく、より一層両市の友好親善が深まることを願っています。



▲ホストファミリーとのお別れ



▲サッカー交流試合 (平成 30 年度派遣事業)

ネオ・ダール会 ネオ・ダール展

会長 伊藤 文夫

芸術の分野での異業種交流が良いと洋画、染色、書、写真などの作家が集まり、昭和 57 年 (1982 年) 6 月に発足したネオ・ダール会。

毎年 1 回、大垣市文化会館で展覧会を開催しており、今年は交流 25 年のフランス (PARADOXES) は作品を、交流 16 年目の韓国 (CREART) は、メンバー 7 人が応援に駆けつけてくれました。

私たちと PARADOXES、CREART との文化交流は時代の今だからこそ、続けなければいけないと思っています。韓国・昌原市ではクレーア展に参加 8 回、フランスではサンディエゴ市、パリ市、マンドレ市と 3 回の展覧会、そしてこの大垣で出来る喜びに感謝しつつ、第 36 回ネオ・ダール『日・仏・韓国合同展』を開催致しました。

また地域との絆を深めるため、この会は作品を発表するだけでなく、市民の皆さんとの一歩踏み込んだ交流をと続けてきた学校巡回展も、19 年目に入り、今年は大垣市立興文中学校で開催しました。

また、身障者の方に会場を提供し表亨民氏、山田真紀氏、藤野りえ氏の作品を招待出品などもしました。平和の尊さを表現し、人種や主義の違いを超えて“価値観の共有”を目指す、そんなネオ・ダールでありたいと思っています。



▲第 8 回韓国・昌原展会場



▲第 35 回ネオ・ダール展会場

オーストラリア・グレンアイラ市

大垣市立中川小学校

コーフィールド小学校との交流

校長 北村 厚史

中川小学校は平成 23 年 (2011 年) からグレンアイラ市のコーフィールド小学校との交流を続けています。コーフィールド小学校から隔年で 10 人程の児童が中川小の児童の家庭に滞在し、中川小学校での生活を体験します。コーフィールド小学校は日本語教育に力を入れており、簡単な日本語を話せる児童が多いのですが、本校は英語教育に重点を置いているため、コーフィールド小の来校時にはできるだけ英語でお迎えしています。中川小の子ども達は日頃の英語の授業の成果を発揮して、一生懸命英語で話しかけます。一緒に日本やオーストラリアのゲームや遊びをしたり、書道や茶道の体験をしたり、おにぎりを作って食べたりする中で、自分の説明が相手に通じたり、自分の思いが伝わった時の喜びは大きく、子ども達はますます英語学習への意欲を高めています。

来年度は訪日の希望者が多いため、来年と再来年に分かれて 15 人ずつが来校する計画になっています。ホストファミリーとなる家庭を募集するのが大変ですが、子ども達にとってもよい経験になるからとご協力いただける家庭が多いことが有り難いです。

今後はテレビ会議システムを使って通常の英語の授業の中でもコーフィールド小学校と交流を進めていく予定です。子ども達の国際理解と英語教育の充実のため、これからますます活発な交流を続けていきたいと考えています。



学校法人平野学園

フレンドリーシティは交流の礎

理事長 平野 宏司

設立 30 周年を迎えられた大垣国際交流協会 (OIEA) 並びにご関係者様に心よりお祝い申し上げます。

当学園が交流を進めるキルヴィントン・グラマースクールは、大垣市のフレンドリーシティであるオーストラリアのグレンアイラ市にあり、両市を結ぶ OIEA のご尽力のおかげで深く長い交流を続けております。

スタートは平成 7 年 (1995 年)。同市からの派遣団の引率者と共に大垣市スイトピアセンター 1 階のソファで会談し、生徒の交換留学をはじめ、教員相互研修などを進めることに合意したのがまだついこの前のように感じられます。以来人的交流を続けてきており、キルヴィントン校の発展に合わせ、当校も刺激を受けつつ教育活動をしております。

交換留学生第 1 号のナターシャは来垣数年後あらためて当校を訪れ、社会での活躍ぶりを話してくれました。交流した方々の中には、結婚を報告してくれた人や、毎年クリスマスカードを送ってくれる人もあり、まさに当校並びに生徒、学生の宝と言えるネットワークです。

これからも OIEA がますますその活動の幅を広げ、さらに多くの方々が国際的なネットワークのもとで安心して交流し、教育的、文化的、経済的なつながりの礎とされることを願っております。





大垣西ロータリークラブ

フレンドリークラブ・グレンアイラロータリークラブとの友情と絆

第58期会長 安藤 光男

(公財)大垣国際交流協会の創立30周年を心からお喜び申し上げます。

大垣西RCとオーストラリア・グレンアイラRCは平成18年(2006年)4月にフレンドリークラブの調印をし、以来互いの周年事業・式典等に参加し交流してきました。

また、大垣市とグレンアイラ市とは昭和47年(1972年)のRCの高校生交換留学生事業をきっかけとして民間交流が始まり、昭和63年(1988年)よりフレンドリーシティとして交流が続いています。

今年度は隔年で(公財)大垣国際交流協会が実施している第7回大垣市小・中学生グレンアイラ市研修派遣事業をこの8月に行うため準備をしていましたが、諸事情で訪問を予定していた学校との交流や、その生徒宅でのホームステイができない状況でした。

そんな折、5月に開催された大垣市制100周年事業で来日され、大垣まつり等を見学いただいたグレンアイラRCの会員の皆様に相談したところ、帰国後RC会員のご尽力で予定通り、小・中学生研修派遣が今まで以上の素晴らしい結果となり実施できました。これは両クラブの友情と絆があったからこそだと感謝するとともに、フレンドリーシティとしての絆がさらに深まったことに感動いたしました。



▲グレンアイラロータリークラブ主催のパーティー(小・中学生派遣事業にて)



▲ロータリークラブ交流

ドイツ・シュツットガルト市

公益財団法人大垣市体育連盟 日独スポーツ交流協会

世界に羽ばたくはじめての一步

会長 高木 保夫

公益財団法人大垣国際交流協会が創立30周年を迎えられ、その足跡を綴る記念誌が発刊されますことを心からお祝い申し上げます。

さて、本連盟がドイツ・シュツットガルト市との交流を始めたのが昭和57年(1982年)のことであり、早40年近くが経とうとしています。この間、27回の派遣にて、団長・総務を含む指導者105人、青少年177人を同市へ派遣し、16回の受け入れにて、184人のドイツの友を大垣市へお迎えしています。平成19年(2007年)からは、青少年と指導者合同で14人(平成28年(2016年)から13人に変更)の派遣団を編成しての交流となり、5年ごとに同市スポーツクライスユージェントと交流の協定を結び、隔年で派遣と受け入れを行っています。

これらの交流が継続できますのは、故小倉満前大垣市長をはじめ両市における多くの諸先輩方のご尽力や、通訳の皆さま、各種体験やホストファミリーとして快く受け入れにご協力いただけのご家族等あってのことと深く感謝いたします。

また、10日間ほどのこの交流事業をきっかけに、国際感覚に磨きがかかり、海外に目を向けてまい進する若者も多く輩出しており、いかにこの交流が有意義で貴重なものかをうかがい知ることができます。今後も同事業が継続され、次代を担う青少年・指導者の躍進の一助となることを祈念いたします。



▲ドイツの家族と再会を誓って(平成30年3~4月の派遣)

米国・ビーバートン市、ユージーン市

国際交流ボランティアグループWING

米国オレゴン州との交流

会長 加藤 咲子

私たちWINGは、大垣市内を中心に主婦が始めたホームステイ受け入れ団体です。平成3年(1991年)にオレゴン州のホストファミリーを務めた親子20人がオレゴン州を訪問した後、「国際交流ボランティアグループWING」を設立し、今日まで活動を続けています。主な活動としては、米国オレゴン州のオレゴン異文化交流協会(小沢勝義代表)が派遣する高校生グループのホームステイ受け入れがあります。平成2年(1990年)から毎年欠かすことなく、29年間で752人の学生を受け入れてきました。ホームステイ等を通じて交流を深めると共に、異文化の理解を図ることができました。また、一般市民が参加できる「アメリカンセミナー」を開催し、国際理解に関心のある幅広い年齢層の人々が参加し、日米の文化の違い等について活発な意見が交わされ交流の視野を広げることができました。また、受け入れだけでなく、オレゴン州を訪問し、オレゴン州の人々との親善交流を続けてきました。

このようなWINGの地道な草の根交流が実って、平成27年(2015年)11月には、オレゴン州のビーバートン市、ユージーン市の2都市が大垣市のフレンドリーシティに加わることになりました。大垣市で初めての高校生研修派遣事業が実施されることになり、今年で4回目になります。日米高校生同士の交流がいっそう充実したものになるよう願っています。



▲アメリカンセミナー(市民との対話集会)でスピーチする高校生



▲日本文化体験



多文化共生推進事業

多文化共生とは・・・

『地域で生活する外国人を地域の一員として受け入れ、互いの文化を認め合いながら共に生きていくこと』

平成2年(1990年)の「出入国管理及び難民認定法」の改正以降、日系人の日本での就労が容易になったことや、外国人技能実習制度による実習生の受け入れが始まったことを背景に、全国的に外国人人口は増加しました。

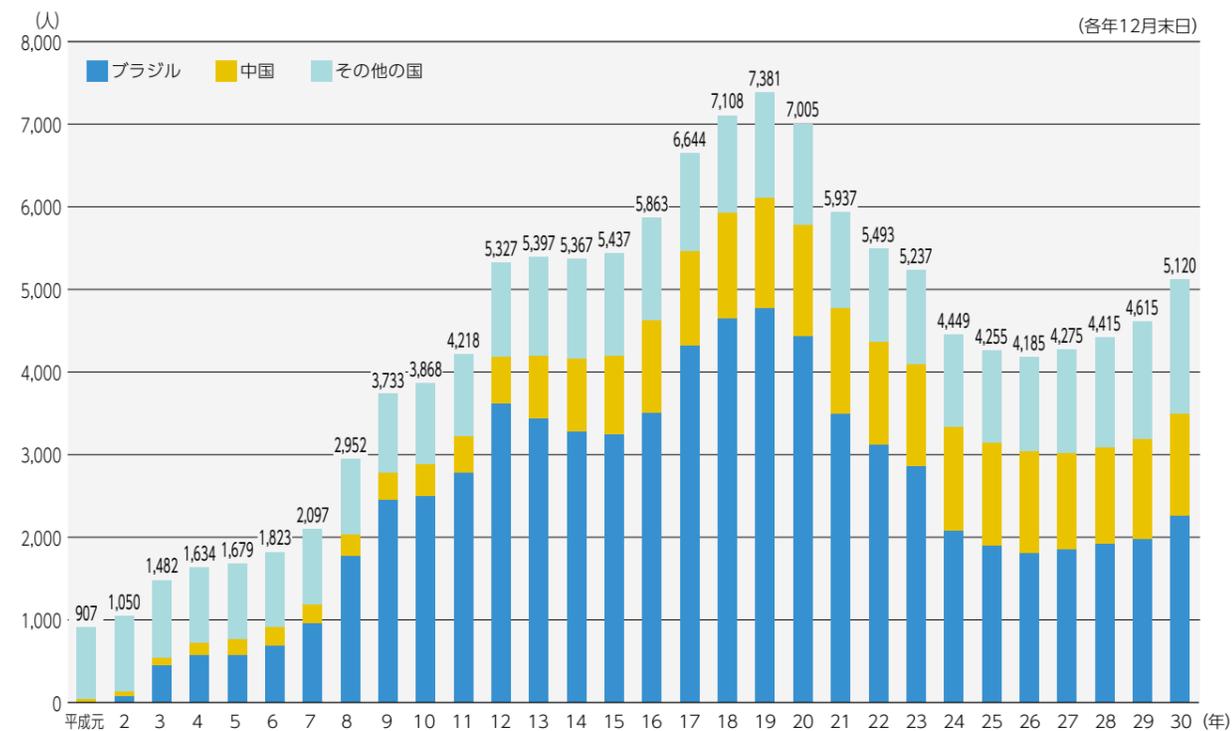
大垣市においても、盛んな製造業が就労の受け皿となって増加し続け、平成20年(2008年)4月には過去最多の7,387人になりました。その後、平成20年(2008年)秋の世界同時不況(リーマンショック)による外国人の雇用喪失を背景にそれまで増加傾向にあった外国人市民の数は減少しました。その後、減少傾向が続きましたが、景気の回復に伴い、近年は増加傾向にあります。

国籍別で見ると、平成元年(1989年)には大垣市に3人しかいなかったブラジル人は、平成20年(2008年)9月のピーク時には4,682人に上りましたが、その後、リーマンショックなどを背景にブラジル人の転出が続きました。近年は、ブラジル人の割合が減少し、中国、フィリピン、ベトナムをはじめとする東南アジア出身者の割合が増え、今後もこうした傾向は続くと思われまます。

現在は、外国人市民の永住・定住化が進み、小・中学校においても外国にルーツを持つ児童生徒が増加するなど、外国人市民は地域の一員となっています。

大垣市在住外国人の状況

①外国人の推移(平成元年(1989年)～平成30年(2018年))

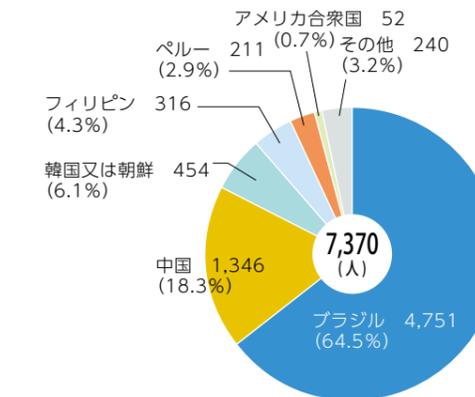


②外国人国籍別人数表(平成31年(2019年)2月末現在)

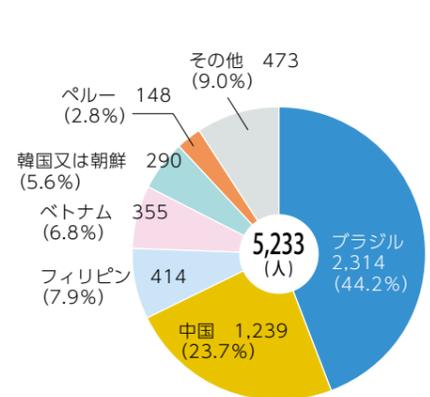
順位	国籍別	人数
1	ブラジル	2,314
2	中国	1,239
3	フィリピン	414
4	ベトナム	355
5	韓国又は朝鮮	290
6	ペルー	148
7	ネパール	118
8	インドネシア	59
9	カンボジア	35
10	アメリカ合衆国	32
11	スリランカ	31
12	タイ	29
13	パキスタン	23
14	ミャンマー	21
15	バングラデシュ	14
16	インド	12
17	台湾	9
18	モンゴル	9
19	ボリビア	8
20	マレーシア	7
21	エジプト	7
22	イギリス	7
23	イタリア	5
24	カナダ	4
25	ルーマニア	4
26	トルコ	4
27	コロンビア	3
28	コートジボワール	3
29	ラオス	3
30	シンガポール	3
31	アルゼンチン	2
32	オーストラリア	2
33	ドミニカ共和国	2
34	モルドバ	2
35	パラグアイ	2
36	ウクライナ	2
37	ドイツ	1
38	ガーナ	1
39	メキシコ	1
40	オランダ	1
41	ニュージーランド	1
42	ロシア	1
43	スウェーデン	1
44	無国籍	4
合計		5,233

③国籍別の割合

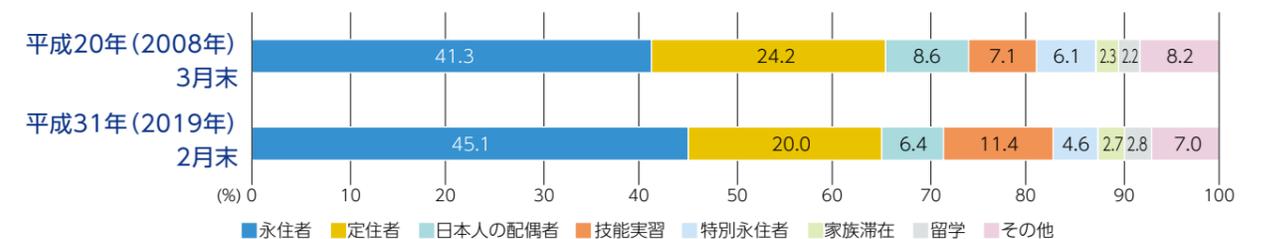
平成20年(2008年)3月末



平成31年(2019年)2月末



④在留資格別の割合





地域に暮らす全ての人が、地域で溶け込んで、社会の一員として生活するためには、外国人市民が日本の言葉、文化を理解することに加えて、日本人市民も相手のことを理解することが必要です。

大垣国際交流協会では、外国人市民を対象に日本語の学習支援、外国語での相談窓口の開設、日本文化に触れる講座を実施してきました。また、外国の言葉や文化に触れる講座やイベントも実施してきました。

外国人市民のための日本語学習支援

大垣市には約 5,300 人の外国人市民が住んでいます。日本で安心して生活するためには日本語ができることが必要不可欠ですが、日本語が十分に理解できない外国人が多くいます。そこで、言葉の壁を乗り越えるために日本語学習に励んでいる人へ学習支援をしています。

1. マンツーマン方式による日本語学習支援

日本語指導ボランティアと外国人市民が 1 対 1 のペアになり、日常生活に必要な日本語を学習しています。

2. 外国人市民のための日本語教室

クラス形式の日本語教室で、楽しく日本語の会話を学んでいます。

3. にほんごおしゃべりルーム

日本語でおしゃべりをするを通して、日本語に触れてもらう機会を作っています。

4. 日本語学習教材の作成

大垣地域で暮らす外国人の生活場면을想定した教材を作成し、日本語学習、生活に活用しています。

5. 日本語指導ボランティア講座

日本語学習をサポートする日本語指導ボランティアの養成講座を実施しています。

6. 就学前外国人児童日本語等指導事業（プレスクール）

小学校入学直前の外国にルーツを持つ親子を対象に、日本語及び日本の学校生活について指導しています。

7. ブラジル人子弟日本語学習支援事業

ブラジル人学校（学校法人 HIRO 学園）に通う児童生徒の日本語学習を支援するために、日本語指導者を派遣しています。

マンツーマン方式による日本語学習支援の実績

(平成31年(2019年)2月末現在)

〈国籍別〉

国名	人数	国名	人数	学習者数	ボランティア数	
ベトナム	75	ラオス	3	平成 20 年度 (2008 年度)	236	197
ブラジル	35	ネパール	2	平成 21 年度 (2009 年度)	223	191
中国	24	フィリピン	2	平成 22 年度 (2010 年度)	223	191
インドネシア	8	ペルー	2	平成 23 年度 (2011 年度)	139	133
スリランカ	4	韓国	1	平成 24 年度 (2012 年度)	98	93
アメリカ合衆国	3	バングラデシュ	1	平成 25 年度 (2013 年度)	107	89
インド	3	総数	163	平成 26 年度 (2014 年度)	108	93
				平成 27 年度 (2015 年度)	134	106
				平成 28 年度 (2016 年度)	128	91
				平成 29 年度 (2017 年度)	150	102

日本語指導ボランティア数102人

各年度末の人数

マンツーマン方式による日本語学習支援

日本語指導ボランティアとペアになり、週に 1 回程度日常生活に必要な日本語を学習しています。平成 31 年 (2019 年) 2 月末現在、163 人 (13 か国) の外国人市民が、日本語を学習しています。「マンツーマンなので聞きたいことが、どんどん質問できるのでよい」「自分の生活に必要な日本語を学べるのでとても充実した学習ができています」などの声があるように、とても盛況です。



▲日曜日には、多くの人が学習しています



外国人市民のための日本語教室

日本語を基礎から学ぶ日本語教室を毎週日曜日に開催しています。様々な国の出身者が一緒になって、日本語を学んでいます。初級レベルの「基礎クラス」、生活場面での会話（買い物、病院など）を学ぶ「せいかつのにほんごクラス」を開催しています。【文化庁委託事業】



▲ごみの分別を学ぶ



▲「地震だー」
「机の下に入って」

にほんごおしゃべりルーム

毎週日曜日に実施しており、日本語指導ボランティアの方々とおしゃべりをする中で、日本語のコミュニケーション力をつけてもらう支援をしています。

5 月にはこどもの日、7 月には七夕のイベントを行ったり、茶道などの日本文化の体験をしながら日本語でおしゃべりを楽しんでいます。





就学前外国人児童日本語等指導事業（プレスクール）

小学校入学直前の外国人児童を対象に、日本語指導及び学校生活への適応指導を実施しています。

また、保護者にも日本の学校制度などを伝え、外国の小学校との違いに戸惑うことがないように、基礎的な知識の習得を目標に巡回個別指導、集団一斉指導を行っています。【大垣市委託事業】

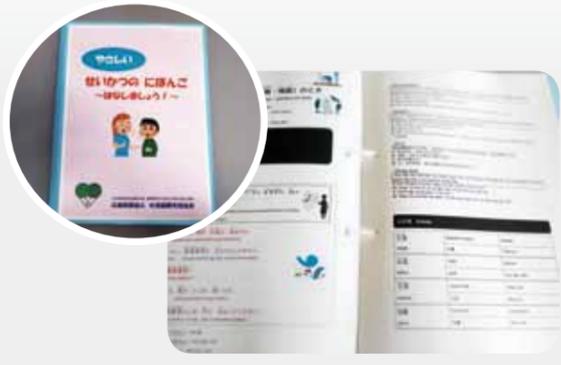


日本語学習教材の作成

平成 28 年度(2016年度)から平成 30 年度(2018 年度)の3 年間、日常生活に必要な日本語を学習する教材を作成しました。

この教材は、大垣地域に暮らす外国人の生活場面を想定した教材で、自己紹介、大垣市役所での手続、病院の受診、ごみ出しのルールなどを扱い、会話や語彙、そして生活情報を習得できる教材です。

現在は、この教材を使って日本語学習支援を行っています。【文化庁委託事業】



日本語指導ボランティア講座

外国人市民の日本語学習支援を継続するために、日本語指導ボランティアの養成講座を開催しています。講座では、地域の外国人の現状や日本語を教える際に知っている役に立つ知識などをお伝えしています。

受講後は、多くの方にマンツーマン方式による日本語学習支援や日本語教室のアシスタントとして活動していただいています。【文化庁委託事業】



外国人市民のための相談窓口の設置

地域に在住する外国人の日常生活の困りごとに対応し、不安を軽減するための相談業務を実施しています。

外国語による相談窓口 中国語、英語は休館日を除く毎日、ポルトガル語は日曜日に行っています。

ポルトガル語によるこころの相談 悩みごと、将来の不安など、ブラジル出身の心理カウンセラーが相談に乗っています。

行政書士による行政手続き相談 毎月 1 回、行政手続き等の相談に、行政書士が対応しています。

外国人市民のための行事、講座等

日本の文化や習慣に触れ、日本に馴染んで生活できるよう、日本文化の体験講座・行事を実施しています。

●和服体験



●琴、尺八体験



●書道体験



●日本料理教室

ちらしずし、天ぷらなどを作りました。



●浴衣着付け体験

地域の夏祭りに参加する外国人の浴衣着付け体験を毎年、8月に実施しています。毎年たくさんの親子が参加し、夏祭りを楽しんでいます。



●神輿体験

毎年 10 月に行われる十万石まつりに参加し、神輿かつぎを体験しています。





外国語基礎会話講座

●英語基礎会話講座



●韓国語基礎会話講座



●ドイツ語基礎会話講座



●中国語基礎会話講座



●フランス語基礎会話講座



●ポルトガル語基礎会話講座



海外事情紹介事業

●多文化紹介講座

世界の国々について紹介する講座を開催し、イギリス、オーストラリア、ドイツ、フランス、中国をはじめ、各国の文化、歴史や日本との違い、現在の社会状況などについて紹介し、たくさんの方にご参加いただきました。



▲イギリス文化紹介



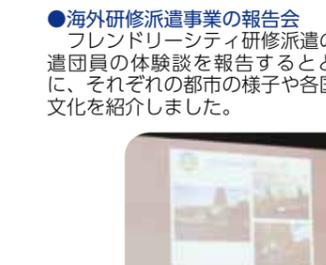
▲ネパール文化紹介



▲ブラジル文化紹介、料理も作りました



▲フランス文化紹介



●海外研修派遣事業の報告会

フレンドリーシティ研修派遣の派遣団員の体験談を報告するとともに、それぞれの都市の様子や各国の文化を紹介しました。



地域国際交流事業

地域の子どもたちが、楽しく外国の文化や言葉に触れるイベントを実施しています。英語やポルトガル語による絵本の読み聞かせ、「食」をテーマにした「子ども食文化体験教室」などを開催しました。



▲英語の読み聞かせやハロウィーンのイベントなど楽しく英語に触れるイベントを行いました



▼ペダルをまわすと水を浄化する自転車 (JICA 中部にて)

▼iPadを使って、外国の文化紹介動画を作りました



▲世界の水問題を学びました (JICA 中部にて)



▲ネパールのカレー作り



▲世界の食について学びました



外国人市民に聞きました

- 【Q1】いつ日本に来ましたか。理由は何ですか。
- 【Q2】母国との文化の違いでびっくりしたことは何ですか。
- 【Q3】日本での生活で特に困ったことは何ですか。その時はどうしましたか。
- 【Q4】誰もが住みやすいまちにするにはどんなことがあったら（どうしたら）いいと思いますか。



▲来日間もないころの家族パーティー



山下 祐司さん (フィリピン)

- A1. 1996 年に来日。おじいさんは日本人で、おばあさんはフィリピン人です。日系人で、日本の血が流れています。そして、九州に住んでいた叔父が家族皆を日本に連れてきたかったからです。
- A2. 病院です。フィリピンの保険は高すぎて、ほとんどの人は病気になってから保険に入りますが、日本は最初から保険に入り、父が病気で入院した時にとても助かりました。患者さんの病気などに合わせて、栄養を考えた食事を出してくれることに一番びっくりしました。フィリピンでは、毎食家族が食事を作って、病院まで持って行かなければなりませんから、日本の病院のシステムはすごくいいと思いました。
- A3. 言葉ですね。日本語が分からなかったから市役所に行っても、銀行に行っても大変でした。その時は職場の人に聞いたり、アパートの人に聞いたり、本を買って自分で勉強したり、辞書で調べたりしていました。今はボランティアの先生（マンツーマン方式の日本語学習支援の支援者）に教えてもらっています。
- A4. 市役所や病院などに通訳さんがいた方がやはりいいですね。特に、病院です。病状や薬などの日本語はとても難しいし、間違えると大変なことになります。あと、やさしい日本語で話してもらえると、とても嬉しいです。



野崎 逸茹さん (中国)

- A1. 1995 年に来日。兄が東京にいたので、行ってみようかなと思って来ました。
- A2. 銭湯ですね。東京に住んでいた時に、部屋が狭くてお風呂がなかったので、近所の銭湯に行っていました。銭湯の受付のおじいちゃん、おばあちゃんが男湯も女湯も全部見られるような高台に座っていたので、びっくりしました。裸をじっと見られているような気がして、すぐ銭湯を出てしまいました。今思うとたぶん年配の人が倒れていないかと見張っていたのかもしれないね。
- A3. 言葉ですね。周りの日本人が親切に教えてくれました。
- A4. 発信が足りないですね。もっと定期的に交流会を開いたり、イベントを開催したりするといいですね。子育て中の外国のお母さん達は、分からないことも多いので、先輩の外国人ママに聞ける交流会とかあるといいですね。あと、日本人も外国人も一緒に参加して交流できるイベントもあるといいですね。例えば、「日本語であそぼう」とか。日本人と外国人の間の壁を壊せてこそ、共生できると思います。



左:グエン ティ ハンさん
中:グエン トウ タオさん
右:チャン ティ ランさん (ベトナム)



- A1. ハンさん：2016 年 8 月に来日。
タオさん：2017 年 1 月に来日。
ランさん：2018 年 1 月に来日。
全員同じ会社の技能実習生です。
- A2. ハンさん：24 時間お店がやっているのが便利。電車や銀行もとても便利。
タオさん：道を歩いている人が少ない。ベトナムでは田舎であっても人がたくさんいるので、少し寂しい感じがします。でも逆に日本は車が多いです。ベトナムは車が少なく、バイクがとても多いです。
- A3. ハンさん：日本語です。1 つのことばにたくさんの意味があり難しいです。例えば、「あく」「開く」「悪」「灰汁」など同じ音なのに意味が違います。
タオさん：日本語。例えばお店で買い物をしたときに「袋ご入用ですか」と聞かれて、「いいです」と日本人は答えますが、「いいです」は「良い=欲しい」の意味か「結構です」の意味か、など分からないことがよくあります。
- A4. 全員：日本人と交流できる場が欲しいです。会社では、仕事以外で話をするとはほとんどなく、日本に住んでいても、実際に日本人と知り合う機会がほとんどないです。



- A1. 2004 年に来日。働きに来て、お金を貯めたらブラジルに帰るつもりでした。
- A2. 日本はとてもきれいです。こんなにきれいな国を見たことがないです。街中にゴミがないし、壁も落書きがされていないです。ブラジルとは真逆です。
- A3. 日本語が分からないのが一番困っています。なかなか覚えられないし、覚えてもすぐ忘れます。その時は通訳さんやまわりの優しい日本人に聞きます。親切な人が多いですから、丁寧に教えてくれます。あと、自治会のことはよく分かりません。町内の集まりの時はほとんど男性で、分からないことがあってちょっと聞きづらいです。
- A4. あまり考えたことがないですが、しいて言えば、保育園にも通訳さんがいるといいかもしれませんね。あるいは困った時にすぐ助けてくれる人がいればありがたいです。電話でもいいです。小学校に上がる時にはプレスクールがあるから学校のことを教えてもらえますが、保育園にはそのような機会がないので、何を準備したらいいか分かりませんでした。

テルヤ プリシラさん (ブラジル)



国際交流ボランティア活動紹介

当協会の事業は、多くの市民ボランティアのみなさんの協力で支えられています。今までに実施してきた事業とともに、ボランティア活動をご紹介します。

日本語指導

地域在住の外国人市民の日本語学習を支援するボランティアグループです。

平成31年(2019年)2月末現在、大垣市には5,233人の外国人市民が住んでいます。日本で安心して生活するためには日本語ができることが必要不可欠ですが、日本語が十分に理解できない外国人が多くいます。そこで、言葉の壁を乗り越えるために日本語学習に励んでいる人へ学習支援をしています。

●マンツーマン方式日本語支援
外国人市民と1対1、または少人数グループになって、日常生活に必要な日本語を学習する支援をしています。



●外国人市民のための日本語教室
日本語教師が指導者となって行っている日本語教室へ、アシスタントとして入り会話練習のお手伝いをしています。



●にほんごおしゃべりルーム
毎週日曜日9時30分～15時に開催し、日常会話のおしゃべりから日本語を学べるよう支援しています。



ホームステイ・ホームビジット

大垣を訪問する海外フレンドリーシティからの訪問団などを、家族の一員として家庭に迎え、ホームステイを通して交流しています。



ドイツ・シュツットガルト市、中国・邯鄲市、ベルギー・ナミュール市などの海外フレンドリーシティとの交流事業を毎年実施しており、大垣を訪れる外国人を家族の一員として家庭に迎え、日本の文化や生活を体験する場を提供しています。

日本文化紹介

地域在住の外国人市民や大垣を訪問する海外フレンドリーシティからの訪問団に、茶道、華道、書道、和服の着付け、邦楽、日本古来の伝統文化などを紹介する活動を行っています。



●浴衣・盆踊り体験



●和服体験 (毎月1～2回)



海外・母国文化紹介

外国の文化や生活習慣・日本との違いなどを「多文化紹介講座」などで紹介しています。



▲ネパールの紹介



▲中国の紹介

通訳・翻訳・災害時通訳

外国からの訪問団受入時の通訳をする通訳ボランティア、災害時に活動していただく災害時通訳ボランティアです。

外国人市民の防災訓練や通訳ボランティア講座などに参加していただき、災害時などに備えています。



企画・運営

協会と共に、行事の企画や運営(準備・進行等)を行います。





大垣市の取り組み

大垣市では、平成2年(1990年)の「出入国管理及び難民認定法」の改正を機に増加した外国人市民に対応するため、市役所窓口における通訳の配置やポルトガル語情報誌「アミーゴ」の発行など、外国人市民の支援に取り組んできました。

さらに、平成23年度(2011年度)には「大垣市多文化共生推進計画」を策定し、従来の取り組みに加え「くらしのガイドブック」作成や外国人児童生徒の就学前指導など、新たな事業を実施し、多文化共生社会の実現に向けた取り組みを進めてきました。

計画は平成28年度(2016年度)に終了しましたが、引き続き実施する事業や、改善・拡充が必要な事業があるため、計画の内容を見直した「大垣市多文化共生推進指針」を策定し、平成29年度(2017年度)からはこの指針に沿って事業を展開しています。

指針においては、外国人市民の永住・定住が一層進み、小・中学校では外国人児童生徒が増加している現況に鑑み、外国人市民は一時的な滞在者ではなく、日本人市民と同様に地域を構成する市民として、お互いが地域社会を形成していることから、目指すべき本市の将来像を「互いに理解を深め、多様性を活かした多文化共生の地域社会」と決めました。

この将来像を実現するため、4つの基本目標を掲げ、目標に沿った施策を体系的に展開していきます。

基本目標1 外国人市民の日本語能力向上

外国人市民の在留期間の長期化・永住化が進む現状において、日本人市民との相互理解を深め地域社会で共生していくためには、外国人市民の日本語習得を促進することが必要です。

また、今後も増え続けると予想される外国人児童生徒については、彼らが日本語及び母国語を習得できれば、地域社会での活躍はもとより、グローバル人材としての活躍が期待できるため、日本語学習を含む外国人児童生徒の学習支援を引き続き推進します。



●外国人児童生徒のための放課後支援教室
外国にルーツを持つ小・中学生を対象に、日本語指導や教科指導を実施し、外国人児童生徒の学力向上を図っています。



●プレスクール「きらきら教室」
小学校入学直前の外国にルーツを持つ親子を対象に、日本語及び日本の学校生活について指導しています。



●多文化共生サポーター派遣事業
外国にルーツを持つ小学生の算数や国語などの授業に多文化共生サポーターが入り込み、授業をやさしい日本語で言い換えることで、児童の授業理解を図っています。



基本目標2 外国人市民に対する相談体制と情報提供の充実

外国人市民の来日直後においては、日本語の習得支援と並行して、生活に必要な情報をわかりやすく提供することも必要です。このため、「やさしい日本語」を含む多言語による相談体制を充実するとともに、ICTを活用するなど多様な方法で情報提供を実施します。



▲ポルトガル語情報誌「アミーゴ」



▲ポルトガル語のメール配信

▲くらしのガイドブック
(ポルトガル語、中国語、英語)

基本目標3 外国人市民と日本人市民の相互理解の向上

多文化共生社会は、外国人市民に対する日本語習得の支援や多言語による情報提供だけでは実現することができません。外国人市民と日本人市民のお互いが理解を深めることで初めて実現できるものです。

このため、日本人児童生徒への多文化共生の視点に立った国際理解教育を推進するとともに、外国人市民と日本人市民が交流する機会を提供します。



▲フレンドリーシティ交流





基本目標 4 外国人市民の防災力向上

近年の自然災害等の増加により、外国人市民の防災への関心が高まっていることを受け、多言語による防災訓練を通じた防災意識の向上や、災害時において外国人市民を支援する体制を整備することで、外国人市民の防災対策を推進します。



▲多文化共生社会のための防災訓練



これらの目標を実現していくため、行政だけでなく、教育機関、国際交流協会、市民団体などと連携して具体的な取り組みを進めるとともに、各推進体制機関の関係者等からなる外部組織「大垣市多文化共生推進会議」における進捗状況の確認・評価等を事業の改善に反映していきます。

入管法の改正により新たな在留資格が増えるなど、今後の外国人市民を取り巻く社会情勢や経済状況は流動的ですが、各事業主体が環境変化に柔軟かつ適切に対応し、お互いに補い合うことで、今後の多文化共生の着実な推進を図っていきます。



▲大垣市多文化共生推進会議



公益財団法人大垣国際交流協会の名誉会長及び相談役の皆さまよりいただきました。

名誉会長

大垣市長
小川 敏



ここ大垣地域におきましては、近年、外国人住民の増加傾向が続くとともに、本年4月からは外国人材を受け入れる新たな在留資格が創設されるなど、今後、本地域における多文化共生社会の重要性は、ますます高まっていくものと思われます。

このような中、本市では、現代の子どもたちが主役となる未来において、本市のあるべき姿を描いた「大垣市未来ビジョン」を、市制100周年という節目の年に策定し、スタートさせたところでございます。これから目指す未来都市像を「みんなで創る 希望あふれる産業文化都市」と定めましたが、これを実現させるためには、本市に暮らす様々な国の市民が、日本人と外国人といった見えない壁を越え、お互いが対等なパートナーとして理解し、手を取りあってくらす「みんながあったかいまち」となることが求められます。

貴協会におかれましては、30年という長きにわたって、多文化共生社会の実現に向けて積極的に取り組んでこられました。皆様には、どうか今後とも多文化共生を推進する事業主体として継続してご活動いただくとともに、行政、市民団体等との連携を強固なものにして、本地域を代表する国際交流の担い手としての役割を果たしていただけることを願っております。

相談役

大垣商工会議所 名誉顧問
太平洋工業株式会社 代表取締役社長

小川 信也



公益財団法人大垣国際交流協会創立30周年を心からお祝い申し上げます。

貴協会は昭和63年(1988年)9月に発足され、以来フレンドリーシティとの交流事業をはじめ、「言葉の壁」「心の壁」「制度の壁」を取り除くための取り組みとして、多言語による相談、情報発信及び日本語学習支援など、多文化共生事業・地域在住外国人市民支援事業を推進され、地域の国際交流の推進に大きく貢献してこられました。これらの活動を支えてこられた歴代会長をはじめ、役員・会員・職員の皆様のご尽力に深く敬意を表します。

今、IT・IoT・AIが世界を繋ぎ、世界を狭くしていく時代にあります。地域では、より国際的な交流を深めていく必要が出てきています。現在、大垣市には5,000人を超える外国人の方々暮らし、働いておられます。国や文化の違いを超えて相互理解を一層深めるとともに、お互いが生活者であり、地域住民であるとの認識を共有することができる社会を実現することが不可欠であります。

貴協会におかれましては、国際感覚あふれる活力ある街づくりの推進に一層のご尽力を賜りますとともに、地域における国際交流の中核組織として、ますますご発展されますことをお祈りします。



大垣商工会議所 副会頭
セイノーホールディングス株式会社 代表取締役社長

田口 義隆



公益財団法人大垣国際交流協会が設立 30 周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

国際社会に対応できるまちづくりと国際親善に寄与することを目的として昭和 63 年(1988 年)に設立された大垣国際交流協会は、「フレンドリー構想」のもと、フレンドリーシティへの派遣や受入等の国際相互理解の促進に寄与する事業や、日本語学習支援、相談窓口の開設など外国人市民を支援する事業等の様々な国際交流活動を通じて、地域住民の国際交流や国際協力活動に尽力し、多大な貢献をされてきました。

今や大垣市の人口の約 3%は外国人市民の方です。そして日本は人口減少や少子高齢化に伴う労働力不足によって、諸外国の労働力を取り込む動きも増しており、これからはますます国際化が進み、外国人市民との共生がより必要となってきます。そのような時代に求められることは、日本人、外国人の垣根を超えて、異なる文化や歴史、価値観について相互理解を深め、地域住民であるとの認識をお互いが共有することです。

大垣国際交流協会には、今まで培われてきた知識、経験、活動の実績を土台に、これまで以上に国際交流の中核としてご活躍されますことをご期待申し上げます。

サンメッセ株式会社 代表取締役会長
第 3 代大垣国際交流協会 会長、理事長

田中 良幸



昭和 63 年(1988 年)9 月発足当時より、協会役員として携わり、専務理事、副会長、理事長と様々な役職を通じて、素晴らしい経験をさせて頂きました。最初の頃は、フレンドリー構想の意図をどのように理解して頂けるかに随分、煩悶を重ねました。その為、国際理解講演会では、外交官の方々、ブラジル大統領の妹さんや杏林大学の教授等に直接お願いする為に、会いに行ったりもしました。

フレンドリーシティについても、姉妹都市で良いのでは?と問われたり、どのように違うのか説明を重ねました。

殆どの都市と現地で交流をし、京劇の招致や青少年の交換交流に各国を廻りました。

特に青少年交流でホームステイをし、帰りの空港で涙の別れをする光景は眩しかったです。

これから未来を担う若者には、是非参加して頂き、現在、国の事情で交流の途絶えている国々の人達とも是非交流の輪を拡げて頂けるよう期待しています。

立派に成長した(公財)大垣国際交流協会の更なる発展を心より祈念致します。

大垣商工会議所 名誉会頭
株式会社大垣共立銀行 取締役頭取
第 2 代大垣国際交流協会 会長

土屋 嶠



公益財団法人大垣国際交流協会が設立 30 周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。国際交流の推進を図る分野において、長年に亘って活動してこられた関係者皆さまのご尽力に深く敬意を表します。

昭和 63 年(1988 年)9 月の設立以来、産業、文化、スポーツ、教育など、幅広い分野において国際的な交流を行う「フレンドリー構想」に基づき、フレンドリーシティとの交流事業や、在住外国人の方々との共生を目指した支援事業に対し、積極的に取り組んでこられました。大垣市における外国人人口は、平成 20 年(2008 年)にピークとなる 7,387 人を記録した以降減少が続きましたが、平成 27 年(2015 年)から再び増加傾向にあります。また、国籍数も年々増加しており現在では 50 か国程になっています。多様化、国際化する地域社会において、文化や考え方をお互いに理解し、共に支えあうことができる環境づくりがとて重要になります。

多くの理解ある市民の皆さまの支えによって、こうした国際交流が進んでいることに深く感謝申し上げます。

大垣市が、今後益々国際感覚あふれた魅力ある街になるために、貴協会の活動に期待しております。

大垣商工会議所 会頭
日本耐酸塩工業株式会社 代表取締役会長

堤 俊彦



公益財団法人大垣国際交流協会設立 30 周年を心からお祝い申し上げます。

貴協会は、昭和 63 年(1988 年)9 月に設立され、これまで、フレンドリーシティとの交流事業をはじめ、在住外国人市民の生活支援等の諸活動に取り組み、地域社会の振興・発展に多大な貢献をされました。

これらの活動を永年にわたり支えてこられました歴代の会長をはじめ、役員・会員、職員の皆様のご尽力に深く敬意を表します。

さて、大垣市を中心に西濃地域には、9 千人以上の外国人労働者が生活しております。今後、少子高齢化による労働人口の減少に伴い、当地域においても外国人労働者の受け入れが拡大し、在住外国人の増加が予測されます。

こうした中、外国人が地域社会の一員として、産業、文化、教育、スポーツなど幅広い分野で活躍できる地域社会をつくることが重要になってまいります。

外国人を地域の生活者と捉え、地域住民との相互理解を深めながら共生社会を実現することが大垣市のさらなる発展につながるものと期待しております。

貴会におかれましては、今後も国際化に向けた活力あるまちづくりの推進に一層のご尽力を賜りますとともに、地域における国際交流の活動拠点としてますますご発展されますことをお祈りいたします。

第1章 総則

(名称)
第1条 この法人は、公益財団法人大垣国際交流協会と称する。

(事務所)
第2条 この法人は、主たる事務所を岐阜県大垣市に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)
第3条 この法人は、産業、文化、スポーツ、教育等幅広い分野で国際的な交流を基とした「フレンドリー構想」の促進をはかり、国際社会に対応できる街づくりと国際親善に寄与することを目的とする。

(事業)
第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) フレンドリーシティとの学生等の相互受入、人材育成、市民活動の支援など、地域住民の国際交流・国際協力活動を推進し、もって国際相互理解の促進に寄与する事業。
 - (2) 多言語による相談、情報発信及び日本語学習支援など、在住外国人市民支援活動を推進し、もって多文化共生社会の形成に寄与する事業。
 - (3) その他この法人の目的を達成するために必要な事業。
- 2 前項の事業は、大垣市及びその周辺において行う。

第3章 資産及び会計

(基本財産)
第5条 この法人の目的である事業を行うために不可欠な財産は、この法人の基本財産とする。
2 基本財産は、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならないが、基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を要する。

(事業年度)
第6条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)
第7条 この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も同様とする。
2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)
第8条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後3箇月以内に、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
 - (2) 事業報告の附属明細書
 - (3) 貸借対照表
 - (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
 - (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書
 - (6) 財産目録
- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。
- 3 第1号の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。
- (1) 監査報告
 - (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
 - (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
 - (4) 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

(公益目的取得財産残額の算定)
第9条 理事長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第48条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し、前条第3項第4号の書類に記載するものとする。

第4章 評議員

(評議員)
第10条 この法人に、評議員5人以上10人以内を置く。

(評議員の選任及び解任)
第11条 評議員の選任及び解任は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成18年法律第48号。以下「法人法」という。）第179条から第195条の規定に従い、評議員会において行う。

- 2 評議員を選任する場合には、次の各号の要件をいずれも満たさなければならない。
- (1) 各評議員について、次のイからへに該当する評議員の合計数が評議員の総数の3分の1を超えないものであること。
 - イ 当該評議員及びその配偶者又は3親等内の親族
 - ロ 当該評議員と婚姻の届出をしていないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者
 - ハ 当該評議員の使用人
 - ニ ロ又はハに掲げる者以外の者であって、当該評議員から受ける金銭その他の財産によって生計を維持しているもの
 - ホ ハ又はニに掲げる者の配偶者
 - ヘ ロからニまでに掲げる者の3親等内の親族であって、これらの者と生計を一にするもの
 - (2) 他の同一の団体（公益法人を除く。）の次のイからニに該当する評議員の合計数が評議員の総数の3分の1を超えないものであること。
 - イ 理事
 - ロ 使用人

- ハ 当該他の同一の理事以外の役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めのあるものにあつては、その代表者又は管理人）又は業務を執行する社員である者
- 二 次に掲げる団体においてその職員（国会議員及び地方公共団体の議会の議員を除く。）である者
- ① 国の機関
 - ② 地方公共団体
 - ③ 独立行政法人通則法第2条第1項に規定する独立行政法人
 - ④ 国立大学法人法第2条第1項に規定する国立大学法人又は同条第3項に規定する大学共同利用機関法人
 - ⑤ 地方独立行政法人法第2条第1項に規定する地方独立行政法人
 - ⑥ 特殊法人（特別の法律により特別の設立行為をもって設立された法人であつて、総務省設置法第4条第15号の規定の適用を受けるものをいう。）又は認可法人（特別の法律により設立され、かつ、その設立に関し行政官庁の認可を要する法人をいう。）

(評議員の任期)
第12条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。
2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。
3 評議員は、第10条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)
第13条 評議員は、無報酬とする。
2 前項の規定にかかわらず、評議員には、費用を弁償することができる。この場合の支給基準については、評議員会の決議により別に定める。

第5章 評議員会

(評議員会)
第14条 評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

(権限)
第15条 評議員会は、次の事項について決議する。
(1) 評議員の選任並びに理事及び監事の選任及び解任
(2) 理事及び監事の報酬等の額
(3) 評議員、理事及び監事に対する報酬等の支給基準
(4) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認
(5) 定款の変更
(6) 残余財産の処分
(7) 基本財産の処分又は除外の承認
(8) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)
第16条 評議員会は、定時評議員会として毎事業年度終了後3箇月以内に1回開催するほか、臨時評議員会として必要がある場合に開催する。

(招集)
第17条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。
2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(議長)
第18条 評議員会の議長は、出席評議員の中から互選する。

(決議)
第19条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
 - (2) 定款の変更
 - (3) 基本財産の処分又は除外の承認
 - (4) その他法令で定められた事項
- 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第22条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(決議の省略)
第20条 理事が評議員会の目的である事項について提案をした場合において、その提案について、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の評議員会の決議があつたものとみなす。

(議事録)
第21条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
2 議事録には、議長のほか、その会議において議長が指名した議事録署名人2人以上が記名押印する。
3 第1項の規定により作成した議事録は、主たる事務所に10年間備え置かなければならない。前条の規定により作成した評議員会の決議の省略の意思表示を記載した書面についても同様とする。

第6章 役員

(役員の設定)
第22条 この法人に、次の役員を置く。
(1) 理事5人以上10人以内
(2) 監事2人以内
2 理事のうち、1人を理事長、2人を副理事長、2人を常務

理事とする。
3 前項の理事長及び副理事長をもって法人法に規定する代表理事とし、常務理事をもって同法第 197 条で準用する同法第 91 条第 1 項に規定する業務執行理事（理事会の決議により法人の業務を執行する理事として選任された理事をいう。）とする。

(役員を選任)

第 23 条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。
2 理事長、副理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

第 24 条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより職務を執行する。
2 理事長及び副理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、常務理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。
3 理事長、副理事長及び常務理事は、毎事業年度に 4 箇月を超える間隔で 2 回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第 25 条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。
2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況を調査することができる。

(役員任期)

第 26 条 理事及び監事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結のときまでとする。ただし、再任を妨げない。
2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
3 理事又は監事は、第 22 条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第 27 条 理事及び監事が次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。
(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(報酬等)

第 28 条 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、常勤の理事及び有資格者の監事に対しては、評議員会において、別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。
2 前項の規定にかかわらず、理事及び監事には、費用を弁償することができる。この場合の支給基準については、評議員会の決議により別に定める。

(名誉役員)

第 29 条 この法人に、任意の機関として、7 人以内の名誉役員を置くことができる。
2 名誉役員は、名誉会長及び相談役とし、その選任及び解任は、理事会において決議する。
3 名誉役員の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。
4 名誉役員の職務は、代表理事からの相談及び理事会から諮問された事項について、参考意見を述べるものとする。
5 名誉役員の報酬は、無償とする。

第 7 章 理事会

(理事会の設置)

第 30 条 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

第 31 条 理事会は、次の職務を行う。
(1) この法人の業務執行の決定
(2) 理事の職務の執行の監督
(3) 理事長、副理事長及び常務理事の選定及び解職

(招集)

第 32 条 理事会は、理事長が招集する。
2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(議長)

第 33 条 理事会の議長は、理事長とする。
2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、副理事長の中から理事会の議長を互選する。

(決議)

第 34 条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
2 前項の規定にかかわらず、理事が理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、理事の全員が当該提案について書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する理事会の決議があったものとみなす。ただし、監事がその提案に異議を述べたときはこの限りでない。

(議事録)

第 35 条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
2 出席した代表理事及び監事は、前項の議事録に記名押印する。ただし、代表理事の選定を行う理事会については、他の出席した理事も記名押印する。
3 第 1 項の規定により作成した議事録は、主たる事務所に 10 年間備え置かなければならない。前条第 2 項の規定により作成した理事会の決議の省略の意思表示を記載した書面についても同様とする。

第 8 章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第 36 条 この定款は、評議員会の決議によって変更することができる。
2 前項の規定は、この定款の第 3 条及び第 4 条並びに第 11 条についても適用する。
3 前 1 項の規定にかかわらず、第 38 条の規定はこれを変更することができない。

(解散)

第 37 条 この法人は、基本財産の滅失によるこの法人の目的である事業の成功の不能その他法令で定められた事由によって解散する。

(公益認定の取消し等に伴う贈与)

第 38 条 この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）には、評議員会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から 1 箇月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成 18 年法律第 49 号。以下「認定法」という。）第 5 条第 17 号に掲げる法人又は国若しくは大垣市に贈与するものとする。

(剰余金の処分制限)

第 39 条 この法人は、剰余金の分配をすることはできない。

(残余財産の帰属)

第 40 条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、認定法第 5 条第 17 号に掲げる法人又は国若しくは大垣市に贈与するものとする。

第 9 章 公告の方法

(公告)

第 41 条 この法人の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

第 10 章 事務局その他

(事務局)

第 42 条 この法人の事務を処理するため、事務局を設置し、事務局長及び所要の職員を置く。
2 事務局長及び職員は、理事長が任免する。ただし、重要な使用人については、理事会の承認を要する。
3 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

(賛助会員)

第 43 条 この法人の趣旨に賛同する個人又は会社、団体をこの法人の賛助会員とすることができる。
2 賛助会員に関する事項は、理事会の決議により別に定める。

(委任)

第 44 条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に関し必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

附 則

1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（平成 18 年法律第 50 号。以下「整備法」という。）第 106 条第 1 項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。

2 整備法第 106 条第 1 項に定める特例民法法人の解散の登記と、公益法人の設立の登記を行ったときは、第 6 条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

3 この法人の最初の評議員は、次に掲げる者とする。

木曾義尚
木村定昭
子安一徳
傍島香織
土川達也
橋本祐二
松井典子
箕浦 彬
森 妙子
山 信彦

4 この法人の設立の登記の日に就任する理事は、次に掲げる者とする。

田中良幸
平野順一
河合進一
安藤光男
小川博隆
今川喜章
臼井千里
衣斐茂光
栗田茂康
日比利雄

5 この法人の最初の理事長、副理事長及び常務理事は、次に掲げる者とする。

理事長 田中良幸
副理事長 平野順一
副理事長 河合進一
常務理事 安藤光男
常務理事 小川博隆

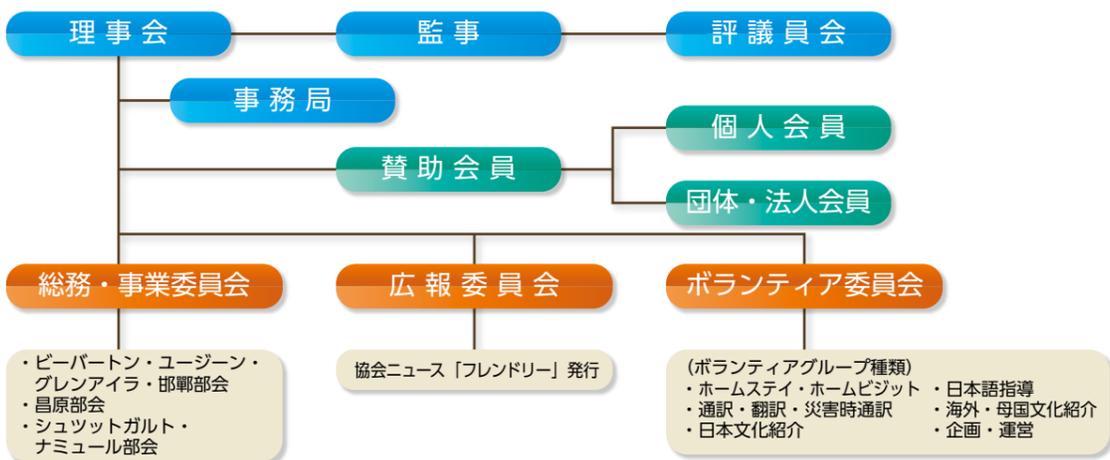
6 この法人の設立の登記の日に就任する監事は、次に掲げる者とする。

朝比奈鋭一
山中 穰

●役員

名誉会長	小川 敏				
相談役	小川 信也	田口 義隆	田中 良幸	土屋 嶮	堤 俊彦
理事長	日比 利雄				
副理事長	今川 喜章	衣斐 茂光			
常務理事	安藤 光男	社本 久夫			
理事	臼井 千里	金森 武	川崎 保典	高木 健志	平野 宏司
監事	朝比奈 鋭一	義見 まり子			
評議員	小川 博隆	木曾 義尚	木村 定昭	土川 達也	橋本 祐二
	早崎 桂子	森 妙子	山 信彦	横井 香織	渡辺 正典

●組織図



●賛助会員数

	会員数	口数
個人会員	138	138
団体・法人会員	36	65

平成 31 年 (2019 年) 2 月末現在

●ボランティア登録者数

種類	人数
ホームステイ・ホームビジットボランティア	53
通訳ボランティア	41
翻訳ボランティア	23
災害時通訳ボランティア	23
日本文化紹介ボランティア	47
日本語指導ボランティア	159
海外文化紹介ボランティア	12
母国文化紹介ボランティア	3
企画・運営ボランティア	31

ボランティア登録者延べ人数：392 人 (実数：222 人)
平成 31 年 (2019 年) 2 月末現在

昌原(チャンオン)市 [韓国]

交流開始：昭和 63 年 (1988 年) 10 月

西濃日韓親善協会と日韓友好促進大垣市議会議員連盟の仲介で、大垣竹の子会が昌原 JC と、昭和 60 年 (1985 年) 5 月に相互交流を開始したことを機に本市と昌原市の交流が始まった。昭和 62 年 (1987 年) には大垣少年少女合唱団が公演を行う。昭和 63 年 (1988 年) 10 月、昌原市長が市制 70 周年記念式典に出席したのを機にフレンドリーシティとしての交流が始まった。また同月、昌原市の実業団サッカーチームと西濃運輸との日韓サッカー親善試合が開催された。

年月	交流主体	内容
平成 20 年 (2008 年) 6 月	大垣竹の子会	「昌原 JC・安南小学校訪問団」が大垣市を訪問 (パク スンジョン昌原 JC 会長ほか会員 8 人、会員家族 6 人、引率教諭 1 人、小学生 8 人 計 24 人)
	ネオ・ダール会	第 4 回 CREART 展、昌原市・城山アートホールに於いて韓日合同美術展に参加
8 月	大垣市体育連盟	日韓両国の竹島領有権問題を原因として、昌原市側から「第 6 回韓国青少年スポーツ相互交流派遣事業」を中止の要請
	大垣少年少女合唱団	日韓両国の竹島領有権問題を原因として、昌原市が「昌原市立少年少女合唱団」の大垣訪問を中止
9 月	大垣商業高等学校	日韓両国の竹島領有権問題を原因として、昌原市がフレンドリーシティ交流訪問 (大垣商業高校が昌原文星高校を訪問) を中止
	大垣竹の子会	昌原 JC が「海外児童文化交流事業」を中止
10 月	大垣市	「昌原市代表団」および「昌原市立舞踊団」が大垣市制 90 周年記念式典等行事に出席。昌原市長、昌原市立舞踊団が「大垣市民の集い」のなかで開催された「朝鮮通信使行列」に出演
	大垣市	伊藤義彦副市長が、西濃日韓親善協会訪韓団 (堤俊彦団長) とともに、市制 90 周年記念行事への昌原市代表団出席に対する答礼として、昌原市を訪問 (団員 19 人)
平成 21 年 (2009 年) 7 月	大垣竹の子会	インフルエンザ感染拡大により、昌原 JC が「昌原 JC・安南小学校訪問団」を中止
	大垣少年少女合唱団	インフルエンザ感染拡大により、昌原市の「大垣少年少女合唱団訪問」を中止
10 月	昌原市	昌原市議会友好訪問団が大垣市を訪問 (裴鍾天 (ベジョンチョン) 昌原市議会議長ほか市議会議員 6 人、行政職員 5 人、通訳 1 人 計 13 人)
	大垣市体育連盟	「第 7 回韓国青少年スポーツ相互交流派遣事業」実施 ※ 7 月実施予定だったが、インフルエンザ感染拡大により 11 月に実施 (浅野一団長ほか引率者 3 人、団員 15 人)
平成 22 年 (2010 年) 5 月	大垣市体育連盟	「第 7 回韓国青少年スポーツ相互交流受入れ事業」実施 (ジンジョンウォン団長ほか引率者 5 人、団員 17 人 計 23 人)
	大垣市	昌原市合併式典への招へいを受け、小川敏市長、吉川勝議長、市職員の 3 人が訪問
7 月	昌原市	隣接する馬山 (マサン) 市、鎮海 (ジンヘ) 市と行政合併。市名は昌原市。旧昌原市長の朴完洙 (パク ワンス) 氏が市長に就任 (市長選は 6 月に実施)
	大垣少年少女合唱団	昌原市立少年少女合唱団との交歓演奏会に出席するために昌原市を訪問 (田中重勝団長ほか引率者 5 人、団員 27 人、通訳 1 人 計 34 人)
8 月	ネオ・ダール会	第 5 回 CREART 展、昌原市・城山アートホールに於いて韓日合同美術展に参加
	大垣竹の子会	昌原 JC の三丁子小学校訪問団を受入。両クラブ友好団体結縁調印 10 周年記念式、南小学校訪問、ホームステイ等を実施 (ソ ヨンゴン昌原 JC 会長ほか会員 13 人、小学生 8 人、教師 1 人 計 23 人)
10 月	大垣市	2010 昌原フェスティバルへの招へいを受け、広瀬幹雄副市長、市職員の 2 人が訪問
	大垣竹の子会	「海外児童文化交流事業」実施。派遣団が昌原市を訪問 (会員 15 人、引率教諭 1 人、小学生 8 人 計 24 人)
平成 23 年 (2011 年) 4 月	大垣市体育連盟	「第 8 回韓国青少年スポーツ相互交流派遣事業」実施 (一柳正義団長ほか引率者 3 人、団員 16 人 計 20 人)
	大垣少年少女合唱団	「昌原市立少年少女合唱団」が大垣市を訪問。「大垣少年少女合唱団」と交流し、「日韓親善交歓演奏会」を行う (引率者 9 人、団員 30 人、通訳 1 人 計 40 人)
平成 24 年 (2012 年) 5 月	大垣市	「朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流釜山大会」参加に伴い小川市長、市職員の 2 人が昌原市を訪問。朴 (パク) 市長と面談
	大垣竹の子会	「海外児童文化交流事業」実施。「昌原 JC・小学生訪問団」を受入

●フレンドリーシティとの交流経緯 (平成20年(2008年)4月～平成30年(2018年)12月)

年月	交流主体	内容
8月	大垣少年少女合唱団	昌原市立少年少女合唱団との交歓演奏会に出席するために昌原市を訪問 (田中重勝団長 計34人)
	大垣市体育連盟	「第8回韓国青少年スポーツ相互交流受入れ事業」実施 (ソノクマン団長ほか引率者9人、団員13人 計23人)
9月	ネオ・ダール会	第6回 CREART 展、昌原市・城山アートホールに於いて韓日仏合同美術展に参加
12月	大垣少年少女合唱団	同団と昌原市立少年少女合唱団との交歓演奏会事業が、第4回高円宮記念日韓交流基金顕彰式典において「高円宮賞」受賞
平成25年(2013年)5月	大垣竹の子会	「海外児童文化交流事業」実施。派遣団が昌原市を訪問 (中澤信幸会長ほか会員9人、市職員1人、小学生8人 計19人)
7月	大垣市体育連盟	「第9回韓国青少年スポーツ相互交流派遣事業」実施 (細井元団長ほか引率者3人、団員16人 計20人)
9月	大垣少年少女合唱団	「昌原市立少年少女合唱団」の受入事業を予定していたが、日本での風疹流行により中止
平成26年(2014年)8月	大垣市体育連盟	「第9回韓国青少年スポーツ相互交流受入れ事業」実施 (ソノサンソプ団長ほか引率者4人、団員16人 計21人)
9月	ネオ・ダール会	第7回 CREART 展、昌原市・城山アートホールに於いて韓日仏合同美術展に参加
平成27年(2015年)6月	大垣市体育連盟	韓国での MERS の拡大感染により事態を重く受け止め派遣中止
8月	大垣少年少女合唱団	「昌原市立少年少女合唱団」の受入事業を予定していたが、昌原市での MERS 感染者が確認されたため中止
平成28年(2016年)8月	大垣市体育連盟	「第10回韓国青少年スポーツ相互交流派遣事業」実施 (山本浩団長ほか引率者3人、団員13人 計17人)
	岐阜県立大垣工業高校	大垣工業高校海外インターンシップで昌原機械工業高校訪問
9月	ネオ・ダール会	第8回 CREART 展、昌原市・ギャラリーに於いて韓日仏合同美術展に参加
平成29年(2017年)8月	大垣市体育連盟	「第10回韓国青少年スポーツ相互交流受入れ事業」実施 (カンヘドン団長ほか引率者5人、団員16人 計22人)
9月	ネオ・ダール会	15周年記念 CREART 展、昌原市・城山アートホールに於いて韓日仏合同美術展に参加
平成30年(2018年)7月	大垣市体育連盟	「第11回韓国青少年スポーツ相互交流派遣事業」実施 (山本浩団長ほか引率者4人、団員14人 計19人)
10月	大垣市	大垣市制100周年記念式典にイヒョンギユ副市長ら6人が出席。翌日の朝鮮通信使行列の再現に、イ副市長が正使役で参加

グレンアイラ市 [オーストラリア]

交流開始：昭和63年(1988年)10月

大垣西ロータリークラブでは昭和47年(1972年)1月から、また大垣ロータリークラブでは昭和48年(1973年)1月から、日豪の間で高校生の交換留学生事業を実施してきた。これらの交換留学生はメルボルンを中心とするビクトリア州出身者が大半を占めており、そのなかのひとりでコーフィールド市(現グレンアイラ市)在住のデビッド・ハービー氏を介して両市の交流が始まり、市民交流が深められてきた。

その後、昭和63年(1988年)10月に当時のエミール・ブロン市長が大垣市制70周年記念式典に出席されたのを機にフレンドリーシティとしての交流が始まった。以降、ライオンズクラブ、学校法人大垣女子短期大学、A F S日本協会等の交流も活発に行われるようになり、さらに学校法人平野学園でも学生の交流が始まった。

年月	交流主体	内容
平成20年(2008年)5月	平野学園	キルヴィントン校長が平野学園を訪問
8月	大垣市教育委員会	「大垣市教職員海外研修派遣事業」実施 (後藤慶子団長、団員9人 計10人)

年月	交流主体	内容
8月	大垣市 大垣国際交流協会	「第2回大垣市小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣事業」実施 (堀憲司団長、総務1人、団員9人 計11人)
	平野学園	研修派遣でグレンアイラ市を訪問。キルヴィントン校とヘイリーブリー校に短期留学
11月	平野学園	セントピータース校と友好校の調印を行う
	大垣西ロータリークラブ	大垣西ロータリークラブがグレンアイラ市を訪問。グレンアイラロータリークラブ21周年記念式典に参加。グレンアイラ市長表敬訪問 (三輪高史会長ほか11人 計12人)
平成21年(2009年)4月	平野学園	「キルヴィントン校学生訪問団」が大垣市を訪問 (石原啓子女史ほか引率者1人、学生11人 計13人)
平成22年(2010年)4月	大垣市	グレンアイラ市より、ヘレン・ホワイトサイド副市長ほか1人が大垣市を訪問
8月	大垣市 大垣国際交流協会	「第3回大垣市小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣事業」実施 (宇佐美新晶団長、総務1人、団員9人 計11人)
平成23年(2011年)12月	中川小学校	コーフィールド小学校から訪問団を受入 (教員2人、児童6人 計8人)
平成24年(2012年)3月	大垣市 大垣西ロータリークラブ	グレンアイラロータリークラブ ギャラリー・ファビアン会長夫妻ら会員9人が大垣市を訪問。大垣西ロータリークラブ50周年記念式典に参加
8月	大垣市 大垣国際交流協会	「第4回大垣市小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣事業」実施 (大野上喜雄団長、総務1人、団員9人 計11人)
	平野学園	平野学園代表団がグレンアイラ市を訪問。市表敬訪問、キルヴィントングラマースクールとの信書取り交わしを実施 (平野宏司副校長ほか3人 計4人)
9月	平野学園	キルヴィントングラマースクール中高等部派遣団が平野学園での研修のため訪問 (石原啓子教諭、クレア・マッキー教諭、学生9人 計11人)
11月	大垣西ロータリークラブ	大垣西ロータリークラブがグレンアイラ市を訪問。グレンアイラロータリークラブ25周年記念式典に参加 (上田和男会長ほか7人)
平成25年(2013年)10月	中川小学校	コーフィールド小学校から訪問団を受入 (クリストファー・ロビンソン副校長ほか教員1人、児童9人 計11人)
平成26年(2014年)8月	大垣市	小川敏市長がグレンアイラ市を訪問。表敬訪問、ハイムス市長主催歓迎昼食会と「交流25周年記念品・栞モニュメント」披露、コーフィールド小学校祭視察ほか
	大垣市 大垣国際交流協会	「第5回大垣市小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣事業」実施 (河合鋭夫団長、総務1人、団員9人 計11人)
平成27年(2015年)10月	中川小学校	コーフィールド小学校から訪問団を受入 (教員2人、児童8人 計10人)
平成28年(2016年)8月	大垣市 大垣国際交流協会	「第6回大垣市小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣事業」実施 (酒井俊巨団長、総務2人、団員9人 計12人)
平成29年(2017年)4月	平野学園	平野学園・キルヴィントングラマースクール派遣団受入
10月	中川小学校	コーフィールド小学校から訪問団を受入 (マーガレット・ゴードン教頭ほか教員1人、児童9人 計11人)
11月	大垣西ロータリークラブ	大垣西ロータリークラブがグレンアイラ市を訪問。グレンアイラロータリークラブ30周年記念式典に参加
平成30年(2018年)5月	大垣市	大垣市制100周年記念事業(大垣まつり)フレンドリーシティ招へい事業にて、グレンアイラロータリークラブ、マーク・プレストン元会長ほか3人が来垣
8月	大垣市 大垣国際交流協会	「第7回大垣市小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣事業」実施 (小藪卓郎団長、総務2人、団員9人 計12人)

邯鄲(ハンダン)市 [中国]

交流開始：昭和63年(1988年)10月

昭和61年(1986年)に神戸女子大学の稲垣寛先生(旧制大垣中学校出身)の紹介で邯鄲市人民政府(以下、邯鄲市)と接触。両市とも工業都市であるという特性を活かした民間レベル交流を実現するため、相互訪問や文書等の交換を通じて協議を重ね、大垣商工会議所や大垣工場会をはじめとして経済交流の推進、研修・実習生の受け入れが進められた。

昭和63年(1988年)10月に、楊玉儒邯鄲市副市長ほか4名が市制70周年記念式典に出席されたのを機に、フレンドリーシティとしての交流が始まった。その後、大垣市民病院への医師研修生の受け入れなど工業以外での交流も深められた。

年月	交流主体	内容
平成20年(2008年)7月	大垣市 大垣国際交流協会	「第14回中国・邯鄲市学生訪問団受入事業」実施 (張志軍団長、副団長1人、団員10人 計12人)
10月	大垣市	武衛東邯鄲市副市長、呂進龍邯鄲市外事弁公室室長ほか3人が市制90周年記念式典に出席
平成21年(2009年)7月	大垣市 大垣国際交流協会	「第15回中国・邯鄲市学生訪問団受入事業」を予定していたが、新型インフルエンザの影響により中止
8月	大垣市 大垣国際交流協会	「第8回大垣市小・中学生中国・邯鄲市研修派遣事業」を予定していたが、新型インフルエンザの影響により中止
平成22年(2010年)8月	大垣市 大垣国際交流協会	「第15回中国・邯鄲市学生訪問団受入事業」実施 (郭砥生団長、引率2人、団員10人 計13人)
平成23年(2011年)7月	大垣市 大垣国際交流協会	「第16回中国・邯鄲市学生訪問団受入事業」を予定していたが、東日本大震災及び福島原子力発電所の事故の影響により中止
8月	大垣市 大垣国際交流協会	「第8回大垣市小・中学生中国・邯鄲市研修派遣事業」実施 (谷口隆康団長、総務1人、団員9人 計11人)
平成24年(2012年)6月	大垣市	侯華梅邯鄲市副市長ほか3人が来垣
8月	大垣市 大垣国際交流協会	「第16回中国・邯鄲市学生訪問団受入事業」実施 (劉士傑団長、引率2人、団員9人 計12人)
平成25年(2013年)8月	大垣市 大垣国際交流協会	「第9回大垣市小・中学生中国・邯鄲市研修派遣事業」を予定していたが、鳥インフルエンザの影響により中止
	大垣市 大垣国際交流協会	「第17回中国・邯鄲市学生訪問団受入事業」を予定していたが、邯鄲市からの通知により中止
平成26年(2014年)8月	大垣市 大垣国際交流協会	「第17回中国・邯鄲市学生訪問団受入事業」を予定していたが、邯鄲市からの通知により中止
平成27年(2015年)8月	大垣市 大垣国際交流協会	「第9回大垣市小・中学生中国・邯鄲市研修派遣事業」を予定していたが、国際情勢等を勘案し中止
	大垣市 大垣国際交流協会	「第17回中国・邯鄲市学生訪問団受入事業」を予定していたが、邯鄲市からの通知により中止
平成28年(2016年)1月	大垣市 大垣国際交流協会	「第17回中国・邯鄲市学生訪問団受入事業」を予定していたが、邯鄲市からの通知により中止
平成29年(2017年)8月	大垣市 大垣国際交流協会	「第9回大垣市小・中学生中国・邯鄲市研修派遣事業」実施 (比留木修団長、総務2人、団員9人 計12人)
	大垣市 大垣国際交流協会	「第17回中国・邯鄲市学生訪問団受入事業」を予定していたが、邯鄲市からの通知により中止
平成30年(2018年)8月	大垣市 大垣国際交流協会	「第17回中国・邯鄲市学生訪問団受入事業」を予定していたが、邯鄲市からの通知により中止

シュツットガルト市 [ドイツ]

交流開始：昭和63年(1988年)10月

昭和49年(1974年)から実施された日独スポーツ少年団同時交流事業で交流があったバーデンヴェルテンベルク州スポーツユース国際委員長を通じ、財団法人大垣市体育連盟設立30周年を記念して、青少年を派遣した。

昭和57年(1982年)3月、昭和59年(1984年)3月、昭和61年(1986年)3月、そして昭和63年(1988年)3月と隔年でシュツットガルト市を中心に青少年を派遣。特に昭和61年(1986年)3月には、日独スポーツ交流協会を設立し、ドイツ語講座、ホームステイによる受入事業などを実施して、スポーツを中心とした市民交流が深められてきた。昭和63年(1988年)10月ハンス・ブルックマンシュツットガルト市長をはじめスポーツユース関係者が70周年記念式典に出席されたのを機に、フレンドリーシティとしての交流が始まった。

年月	交流主体	内容
平成20年(2008年)3月	大垣市体育連盟 日独スポーツ交流協会	「第13回青少年・指導者ドイツ派遣事業」実施 (高木保夫団長、総務1人、指導者4人、青少年8人 計14人)
7月	大垣市 大垣国際交流協会	「第7回大垣市中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣事業」実施 (棚橋弘団長、総務1人、団員7人 計9人)
平成21年(2009年)5月	大垣市体育連盟 日独スポーツ交流協会	「第5回ドイツ青少年・指導者受入れ事業」実施 (マーティン・マイクスナー団長、副団長1人、指導者4人、青少年8人 計14人)
9月	大垣市 大垣国際交流協会	「第8回ドイツ・シュツットガルト市学生訪問団受入事業」実施 (カール・プレッヘンマッハー団長、副団長1人、団員13人 計15人)
平成22年(2010年)3月	大垣市体育連盟 日独スポーツ交流協会	「第14回青少年・指導者ドイツ派遣事業」実施 (一柳正義団長、総務1人、指導者6人、青少年6人 計14人)
5月	大垣市	小川敏市長、「欧州子どものための都市会議」への招へいを受け、シュツットガルト市を訪問(ベルギー・ナミュール市を併せて訪問)
7月	大垣市 大垣国際交流協会	「第8回大垣市中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣事業」実施 (岩田健次郎団長、総務1人、団員8人 計10人)
平成23年(2011年)6月	大垣市体育連盟 日独スポーツ交流協会	「第6回ドイツ青少年・指導者受入れ事業」を予定していたが、東日本大震災の被害状況を考慮し、シュツットガルト・スポーツユースが延期を決定
10月	大垣市 大垣国際交流協会	「第9回ドイツ・シュツットガルト市学生訪問団受入事業」を予定していたが、東日本大震災及び福島原子力発電所の事故の影響により延期
平成24年(2012年)3月	大垣市体育連盟 日独スポーツ交流協会	「第15回青少年・指導者ドイツ派遣事業」実施 (栗田茂康団長、総務1人、指導者2人、青少年9人 計13人)
4月	大垣市 大垣国際交流協会	「第9回ドイツ・シュツットガルト市学生訪問団受入事業」実施 (イルムガルド・ブフナー団長、副団長1人、団員13人 計15人)
5月	大垣市体育連盟 日独スポーツ交流協会	「第6回ドイツ青少年・指導者受入れ事業」実施 (マーティン・マイクスナー団長、副団長1人、指導者2人、青少年9人 計13人)
7月	大垣市 大垣国際交流協会	「第9回大垣市中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣事業」実施 (鷲野善仁団長、総務1人、団員8人 計10人)
平成25年(2013年)5月	大垣市体育連盟 日独スポーツ交流協会	「第7回ドイツ青少年・指導者受入れ事業」実施 (ギュンター・シュタインブレナー団長、副団長1人、指導者1人、青少年10人 計13人)
10月	大垣市 大垣国際交流協会	「第10回ドイツ・シュツットガルト市学生訪問団受入事業」実施 (アンドレア・フォンケフックス団長、副団長1人、団員13人 計15人)
平成26年(2014年)3月	大垣市体育連盟 日独スポーツ交流協会	「第16回青少年・指導者ドイツ派遣事業」実施 (田中宏和団長、総務1人、指導者4人、青少年7人 計13人)
7月	大垣市 大垣国際交流協会	「第10回大垣市中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣事業」実施 (加藤栄二団長、総務1人、団員8人 計10人)

●フレンドリーシティとの交流経緯 (平成20年(2008年)4月～平成30年(2018年)12月)

年月	交流主体	内容
平成27年(2015年)5月	大垣市体育連盟 日独スポーツ交流協会	「第8回ドイツ青少年・指導者受入れ事業」実施 (ギュンター・シュタインプレナー団長、副団長1人、指導者4人、青少年8人 計14人)
7月	大垣市 大垣国際交流協会	「第11回ドイツ・シュツットガルト市学生訪問団受入事業」実施 (インゲ・プリーニンガー団長、副団長1人、団員13人 計15人)
平成28年(2016年)3月	大垣市体育連盟 日独スポーツ交流協会	「第17回青少年・指導者ドイツ派遣事業」実施 (宇佐見昭典団長、総務1人、指導者2人、青少年10人 計14人)
7月	大垣市 大垣国際交流協会	「第11回大垣市中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣事業」実施 (山本学団長、総務2人、団員8人 計11人)
平成29年(2017年)4月	大垣市体育連盟 日独スポーツ交流協会	「第9回ドイツ青少年・指導者受入れ事業」実施 (マーティン・マイクスナー団長、副団長1人、指導者3人、青少年8人 計13人)
9月	大垣市 大垣国際交流協会	「第12回ドイツ・シュツットガルト市学生訪問団受入事業」実施 (インゲ・プリーニンガー団長、副団長1人、団員13人 計15人)
平成30年(2018年)3月	大垣市体育連盟 日独スポーツ交流協会	「第18回青少年・指導者ドイツ派遣事業」実施 (戸田博二団長、総務1人、指導者1人、団員9人 計12人)
5月	大垣市	大垣市制100周年記念事業(大垣まつり)のフレンドリーシティ招へい事業にて、シュツットガルト市のマーティン・シュライアー副市長、同夫人の2人が来垣
7月	大垣市 大垣国際交流協会	「第12回大垣市中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣事業」実施 (堀田一浩団長、総務2人、団員8人 計11人)
11月	大垣市 大垣国際交流協会	フンボルテウム・シュツットガルト市学生訪問団受入(引率者2人、団員14人 計16人)

ナミュール市 [ベルギー]

交流開始：平成10年(1998年)10月

ナミュール市は、ベルギー王国の南部経済圏にあって、北部経済圏とは違った形で世界の各地と連携し、地域の発展を推進してきた。

欧州大垣共立銀行との交流があったことから、ナミュール市の行政・経済関係者から本市との交流希望が寄せられた。また、ベルギー王国もこれを支援するため、日本総領事を本市に派遣するなど積極的な意志が伝えられた。

大垣市では、大垣ロータリークラブが欧州視察の折、ナミュール市を訪問することとなり、双方の出会いと友好の絆が生まれた。

平成10年(1998年)10月、ジョルジュ・ラトール行政長官をはじめ NEW 関係者が80周年記念式典に出席されたのを機に、フレンドリーシティとしての交流が始まった。

年月	交流主体	内容
平成20年(2008年)10月	大垣市 大垣国際交流協会	ジャンピエール・ヴァンボル行政官夫妻が市制90周年記念式典等に出席 「第5回ベルギー・ナミュール市学生訪問団受入事業」実施 (ナターシャ・ストハウス団長、総務1人、団員7人 計9人)
平成21年(2009年)9月	大垣市 大垣国際交流協会	「第5回大垣市中学生ベルギー・ナミュール市研修派遣事業」を予定していたが、 新型インフルエンザの影響により中止
平成22年(2010年)5月	大垣市	小川敏市長、芸術の祭典「ナミュール・イン・メイ」への招へいを受け、ナミュール市を訪問(ドイツ・シュツットガルト市を併せて訪問)
11月	大垣市 大垣国際交流協会	「第6回ベルギー・ナミュール市学生訪問団受入事業」実施 (エンディ・ラクホワ団長、団員6人 計7人)
平成23年(2011年)9月	大垣市 大垣国際交流協会	「第5回大垣市中学生ベルギー・ナミュール市研修派遣事業」実施 (奥田修二団長、総務1人、団員8人 計10人)

年月	交流主体	内容
平成24年(2012年)10月	大垣市 大垣国際交流協会	「第7回ベルギー・ナミュール市学生訪問団受入事業」を予定していたが、ナミュール市長選挙(10月14日)の影響により中止
平成25年(2013年)9月	大垣市 大垣国際交流協会	「第6回大垣市中学生ベルギー・ナミュール市研修派遣事業」実施 (服部敦弘団長、総務1人、団員8人 計10人)
平成26年(2014年)10月	大垣市 大垣国際交流協会	「第7回ベルギー・ナミュール市学生訪問団受入事業」実施 (オラフ・メフテンス団長、団員9人 計10人)
平成27年(2015年)9月	大垣市 大垣国際交流協会	「第7回大垣市中学生ベルギー・ナミュール市研修派遣事業」を予定していたが、 国際情勢等の状況により中止
平成28年(2016年)10月	大垣市 大垣国際交流協会	「第8回ベルギー・ナミュール市学生訪問団受入事業」実施 (オラフ・メフテンス団長、団員12人 計13人)
平成29年(2017年)9月	大垣市 大垣国際交流協会	「第7回大垣市中学生ベルギー・ナミュール市研修派遣事業」実施 (伊藤敦団長、総務2人、団員8人 計11人)
平成30年(2018年)10月	大垣市 大垣国際交流協会	「第9回ベルギー・ナミュール市学生訪問団受入事業」実施 (オラフ・メフテンス団長、引率者1人、団員13人 計15人)

ビーバートン市 [アメリカ合衆国]

交流開始：平成27年(2015年)11月

ビーバートン市との交流は、平成2年(1990年)にオレゴン異文化交流協会(小沢勝義会長)の高校生訪問団が、大垣市を訪問したことがきっかけであり、これ以降、市内で活動する国際交流団体のWING(加藤咲子会長)が中心となって、毎年継続して受入れをしてきた。

この訪問団は、主にビーバートン市とユージーン市の高校生で構成され、これまでに数多くの両市の高校生が、大垣市でホームステイなどによる交流をしていた。

こうした永年にわたる両市との交流から、平成27年(2015年)11月に小川市長が両市長を表敬訪問したのを機に、フレンドリーシティとしての交流が始まった。

年月	交流主体	内容
平成28年(2016年)5月	大垣市	ビーバートン市姉妹都市諮問委員代表团(6人)が大垣市を訪問(大垣まつり観覧)
6月	国際交流ボランティアグループ WING	「2016年オレゴン高校生教育ホームステイグループ大垣市訪問」実施 (コリンシア・ワーナー団長、引率者1人、高校生32人 計34人)
10月	大垣市 大垣国際交流協会	「第1回大垣市高校生アメリカ合衆国オレゴン州ビーバートン市、ユージーン市研修派遣事業」実施 (石神政幸団長、総務2人、高校生10人 計13人)
平成29年(2017年)6月	大垣市 国際交流ボランティアグループ WING	ビーバートン市の市民合唱団「ISing」(ステファン・ガルバン芸術監督兼指揮者、ジェームズ・ウッド団長ほか43人 計45人)が大垣市を訪問し、大垣市制100周年イベント「フレンドリーシティ合唱の夕べ」に出演 「2017年オレゴン高校生教育ホームステイグループ大垣市訪問」実施 (小沢勝義団長、引率者1人、高校生34人 計36人)
10月	大垣市 大垣国際交流協会	「第2回大垣市高校生アメリカ合衆国オレゴン州ビーバートン市、ユージーン市研修派遣事業」実施 (安藤光男団長、総務2人、高校生10人 計13人)
平成30年(2018年)5月	大垣市	大垣市制100周年記念事業(大垣まつり)のフレンドリーシティ招へい事業にて、 デニー・ドイル ビーバートン市長が来垣
6月	国際交流ボランティアグループ WING	「2018年オレゴン高校生教育ホームステイグループ大垣市訪問」実施 (小沢勝義団長、引率者2人、高校生25人 計28人)
10月	大垣市 大垣国際交流協会	「第3回大垣市高校生アメリカ合衆国オレゴン州ビーバートン市、ユージーン市研修派遣事業」実施 (社本久夫団長、総務2人、高校生10人 計13人)



編集後記

ユージーン市 [アメリカ合衆国]

交流開始：平成 27年(2015年)11月

ユージーン市との交流は、平成 2年(1990年)にオレゴン異文化交流協会(小沢勝義会長)の高校生訪問団が、大垣市を訪問したことがきっかけであり、これ以降、市内で活動する国際交流団体の WING(加藤咲子会長)が中心となって、毎年継続して受入れをしてきた。

この訪問団は、主にユージーン市とビーバートン市の高校生で構成され、これまでに数多くの両市の高校生が、大垣市でホームステイなどによる交流をしていた。

こうした永年にわたる両市との交流から、平成 27年(2015年)11月に小川市長が両市長を表敬訪問したのを機に、フレンドリーシティとしての交流が始まった。

年月	交流主体	内容
平成 28年(2016年) 6月	国際交流ボランティアグループ WING	「2016年オレゴン高校生教育ホームステイグループ大垣市訪問」実施(コリンシア・ワーナー団長、引率者 1人、高校生 32人 計 34人)
10月	大垣市国際交流協会	「第 1 回大垣市高校生アメリカ合衆国オレゴン州ビーバートン市、ユージーン市研修派遣事業」実施(石神政幸団長、総務 2人、高校生 10人 計 13人)
平成 29年(2017年) 6月	国際交流ボランティアグループ WING	「2017年オレゴン高校生教育ホームステイグループ大垣市訪問」実施(小沢勝義団長、引率者 1人、高校生 34人 計 36人)
10月	大垣市国際交流協会	「第 2 回大垣市高校生アメリカ合衆国オレゴン州ビーバートン市、ユージーン市研修派遣事業」実施(安藤光男団長、総務 2人、高校生 10人 計 13人)
平成 30年(2018年) 6月	国際交流ボランティアグループ WING	「2018年オレゴン高校生教育ホームステイグループ大垣市訪問」実施(小沢勝義団長、引率者 2人、高校生 25人 計 28人)
10月	大垣市国際交流協会	「第 3 回大垣市高校生アメリカ合衆国オレゴン州ビーバートン市、ユージーン市研修派遣事業」実施(社本久夫団長、総務 2人、高校生 10人 計 13人)

公益財団法人大垣国際交流協会 30周年にあたり、ここに記念誌を発行できることは、大垣国際交流協会の歩みとともに、活動記録として、次代に受け継がれることと思います。

また、記念誌の発行にあたり、ご寄稿いただきました皆様に、厚く御礼を申し上げます。

協会設立以来の 30年間には、国際情勢の移り変わりや急激な社会の変化などがありました。東日本大震災後には、世界からの援助、温かいメッセージが届きましたが、原発事故の風評を受け、受入れを延期しました。さらに、新型インフルエンザなどによる派遣、受入れの中止などの悲しい出来事もありました。

そのような出来事を乗り越え、青少年のフレンドリーシティへの派遣、受入れの実施は、大垣国際交流協会の大切な役割と重く受け止めて、続けられてきました。

その結果、新たに、アメリカ合衆国・オレゴン州のビーバートン市、ユージーン市の 2都市が、平成 27年(2015年)に大垣市のフレンドリーシティに加わり、第 1 回高校生派遣が、平成 28年(2016年)10月に実現をいたしました。それは、大垣市と大垣国際交流協会の歴史に残る 1 ページとなりました。

もう一つの協会の柱である多文化共生の取り組みについては、様々な文化の相違を認め合う外国人との共生社会実現に向けて、今後も大垣市とともに進めていきたいと思っております。

2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。多くの外国人が日本を訪れ、スポーツを通じて真の国際交流がなされることを誰もが願っています。世界の環境が安全で安心な未来であり、これからも続けられる、派遣、受入の経験が、青少年の未来に一石を投じることになることを、当協会は願っております。

毎回、協会ニュース「フレンドリー」の編集を重ねながら、大垣国際交流協会のボランティアの皆様、外国人の日本語学習支援者の皆様をはじめ多くの方々を支えられて、当協会の 30年が経過したことを実感しております。

この記念誌が、皆様のお手元に届き、未来に向けての国際交流をお伝えできれば幸いです。

ありがとうございました。



編集スタッフ

編集委員会

- 顧問 安藤 光男
- 委員長 木曾 義尚
- 副委員長 増田 裕
- 委員 高橋 美和子
- 委員 野田 正則
- 委員 義見 まり子

事務局

- 事務局長 社本 久夫
- 事務局次長 高木 昭胤
- 職員 吉安 三恵
- 職員 松原 玉林



公益財団法人 大垣国際交流協会

30周年記念誌

Ogaki International Exchange Association 30th Anniversary

発行日／平成 31年(2019年)3月

発行／公益財団法人 大垣国際交流協会

〒503-0911

岐阜県大垣市室本町5丁目51番地

スイトピアセンター内

印刷／サンメッセ株式会社

